

美学校
2025 年度 5 月期
募集要項



美学校

Bigakko Guide 2025



美学校基本構想

裾野に至って現代における美意識（倫理）への介入という想定に立ちつつ

現在の美学校を全構想かつ最高形態の追求として位置づける

教えをうけることを、みずからの意志として据えて、欲するものを得ることはありえても、

教えることをみずから意図し、果たしうるといえることはないであって、

教える意思は、生徒の脳皮質をかすめて消えるのである。

総じて耳目を通し、すなわち空間を媒介として、達して頭脳にいたるコースにおいてそうなので、

脳皮質を駁撃して残るのはきわめて生理的な衝撃感ということだけであつたり、

あるいは、金時絵に使う筆は舟ねずみの毛で作らなければいけない

といったことだけで終わるのである。

そこで、教えられる機関は考えるとしても、教える機関は考えるわけにはいかぬ。

そこで、最高の教育とは、教える意志をもたぬものから、

必要なものを盗ませるといふことになるのか。

美学校
1969 - 2025

第57期2025年度生徒募集にあたって

美学校は1969年に現代思潮社という出版社によって設立されました。設立された背景には、既存の学校教育に対するアンチテーゼがあったそうです。あったそうですと伝聞形で書くのは、開校から50年を経たことによる人的、時代的な断絶があるからです。そして、それに伴って美学校も別の運動体へと変化してきました。

わたしたちは美学校をいわゆる「学校」という静的なものではなく、有機的な運動体として捉えています。ここでは美術や音楽を中心とした様々な教程を開講していますが、そこは技術や知識を体験的に身につける場であると同時に、様々な出会いや実験が起こり、そして自由と自治が存在する場にしたいと思っています。自由と自治というと難しく聞こえるかもしれませんが、自分たちが美術や音楽を通して勝手気ままに楽しむための場所を作りたいということです。自分が楽しむということは、興味を持って楽しめる何かを発見するということです。そして、その興味が他者や社会へと繋がることによって、世界が広がっていくのだと思います。それはわたしたちが50年以上に渡って歩んできた道でもあります。

受講にあたっては、ただ絵を描きたい、音楽を学びたいといった理由で充分です。その気持ちが大切だと思います。経験や年齢は誰も気にしませんので、勇気を持って飛び込んでください。初めてここを訪れる人はきっと美学校を変わった場所だと思うことでしょう。それは校舎が築50年以上の古いテナントビルのワンフロアであったり、古本やチラシや何だかよくわからない物であまりにも雑然としていたり、フランクな講師やスタッフがいたりするからかもしれません。ですが、そんな光景も見慣れてしまえば、特別なものではなくなります。学校では、あれをしてはいけない、これをしてはいけないと言われてきたと思いますが、本当にしてはいけないことなんてそうないはず。ここは自由です。

教程は5月から始まり翌年の3月で終わります。この一年は長いようで短いです。美学校での一年間をどう過ごすか。それはあなたの想像力と行動次第です。みなさんや講師はもちろん、関係する様々な人々、そしてわたしたち自身にとって、これからが面白くなるようわたしたちは尽力します。

2025 年度 5 月期教程（2025 年 5 月～2026 年 3 月）

3・4 教程の中から複数教程の受講も、1 教程のみの受講も可能です。

〈絵画〉

- 造形基礎 I
- 細密画教場
- 生涯ドローイングセミナー
- 超・日本画ゼミ
- ペインティング講座
- テクニック & ピクニック
- New!!** 出張！パープルルーム予備校

〈版画／写真〉

- シルクスクリーン工房
- 石版画（リトグラフ）工房
- 銅版画工房
- 版表現実験工房（銅版画）
- 写真工房

〈現代美術〉

- アートのレシピ
- ビジュアル・コミュニケーション・ラボ
- 芸術漂流教室
- 現代アートの勝手口
- アンビカミング：シャドーフェミニズムズ
の芸術実践（対面、オンライン）※1
- サウンドアート・入門と実践
（オンライン／対面）※2
- New!!** 立体・空間制作ゼミ
時空を超えて～彫刻からインスタレーション
- 未来美術専門学校（募集なし）

〈様々な分野〉

- 実作講座「演劇 似て非なるもの」
- 劇のやめ方

- 特殊漫画家 - 前衛の道
- 意志を強くする時
- 建築大爆発
- アートに何ができるのか
- POP ILLUSTRATION 塾

〈作曲／作詞〉

- 楽理基礎科（オンライン／対面）※2
- 作曲演習（オンライン）
- 歌う言葉、歌われる文字（オンライン／対面）※2
- 実践！自己プロデュースと作品づくり（募集なし）
- 楽理中等科（募集なし）※次回募集は2026年度

〈DTM〉

- 魁！打ち込み道場（オンライン）
- アレンジ & ミックス・クリニック（オンライン）
- New!!** DTM 基礎～Ableton Live 編～（オンライン）

〈研究室〉

- 美楽塾
- ライター講座（オンライン／対面）※2
- 世界のリズムとグルーヴ研究
（オンライン／対面）※2

オープン講座

■ 映画を聴く（オンライン）

- * オープン講座の入学手続きは不要です。WEB サイトの講座ページより直接お申込みください。
- * オープン講座の受講料は学費ページではなく、講座ページに掲載しております。
- * オープン講座は不定期で上記の講座以外も開講しています。詳しくはWEB サイトをご覧ください。

※1 対面とオンラインで回ごとに交互に開催します。対面のみ、もしくはオンラインのみの参加はできません。

※2 オンラインの受講も、対面の受講も、どちらも可能です。対面受講は人数制限があるので毎回授業ごとに参加希望を受け付け、先着で対面参加頂く形になります。希望者多数の場合は均等に対面参加の機会が得られるよう調整いたします。もちろんオンラインのみでの参加でも問題ありません。

2025 年度 5 月期 時間割

	13:00 ~ 17:00, 他	18:30 ~ 21:30, 19:00 ~ 22:00, 19:00 ~ 21:30, 他
月	<ul style="list-style-type: none"> ・シルクスクリーン工房 	<ul style="list-style-type: none"> ・芸術漂流教室 ・テクニク&ピクニック ・ライター講座 ・世界のリズムとグルーヴ研究
火	<ul style="list-style-type: none"> ・石版画（リトグラフ）工房 ・ビジュアル・コミュニケーション・ラボ 	<ul style="list-style-type: none"> ・アンビカミング：シャドーフェミニズムズの芸術実践 ・立体・空間制作ゼミ ・劇のやめ方 ・特殊漫画家 - 前衛の道 ・アートに何ができるのか ・POP ILLUSTRATION 塾 ・魁！打ち込み道場 ・DTM 基礎 ~ Ableton Live 編 ~ ・映画を聴く
水	<ul style="list-style-type: none"> ・意志を強くする時 	<ul style="list-style-type: none"> ・細密画教場 ・版表現実験工房 ・楽理基礎科 ・作曲演習 ・楽理中等科
木	<ul style="list-style-type: none"> ・ペインティング講座（※1） ・銅版画工房 	<ul style="list-style-type: none"> ・生涯ドローイングセミナー ・ペインティング講座（※1） ・アレンジ&ミックス・クリニック ・美楽塾（※2） ・実践！自己プロデュースと作品づくり
金	<ul style="list-style-type: none"> ・写真工房 ・出張！パーブルーム予備校 	<ul style="list-style-type: none"> ・現代アートの勝手口 ・歌う言葉、歌われる文字
土	<ul style="list-style-type: none"> ・造形基礎Ⅰ ・アートのレシピ ・建築大爆発 	<ul style="list-style-type: none"> ・超・日本画ゼミ（※3）
日	<ul style="list-style-type: none"> ・超・日本画ゼミ（※3） ・サウンドアート・入門と実践 ・実作講座「演劇 似て非なるもの」 	

※1 「ペインティング講座」は、13-17 時の枠か 18 時 -21 時の枠かどちらか選ぶことができます。

※2 「美楽塾」の授業曜日・時間は、回によって変更になる場合があります。

※3 「超・日本画ゼミ」の授業曜日・時間は、毎週土曜日 18:30 ~ 21:30（毎月第三週は日曜日 13:00 ~ 17:00）です。

入学案内

2025年度5月期教程の受講を希望される方は、入学規定をお読みになってから以下の手順で入学手続きを行ってください。（オープン講座は、入学手続きは不要です。WEBサイトの講座ページより直接お申込みください。）

入学手続きの手順

1、申込み

当校WEBサイトの受講申込みフォームに必要事項を入力して送信してください。

担当者から学費のお支払いについてのご案内をお送りします。

※書類での申込み

書類での申込みも可能です。希望される方には申込書（入校志望書）を郵送いたしますので、事務局にお問合せください。

申込書（入校志望書）は郵送または持参にて提出してください。

受講申込みフォーム
QRコード



2、学費・教程維持費の納入

担当者からのご案内の送付後一週間以内に学費・教程維持費を納入してください。学費・教程維持費の納入をもって入学手続き完了となります。複数教程の受講などで納入額が不明な場合は事務局にお尋ねください。

3、手続き完了後から受講までの流れ

授業は5月7日以降順次始まります。授業日や持ち物などの初回案内は4月下旬にメールにてご連絡を差し上げます。郵便での連絡を希望する方は、お申込み時にお伝えください。

入学手続き締切り

2025年度5月期 一次締切り 2025年3月31日（月）

※一次締切りの時点で定員に達していない教程は、追加募集をする場合があります。

※学期が始まってから受講を希望する場合は、事務局にお問い合わせください。教程によっては受け入れ可能な場合がございます。その場合、時期、学費などご相談に応じます。

入校志望書の提出先・学費の納付先

《提出先・納付先》

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町2-20 第2 富士ビル3F 美学校 本校 事務局

《振込み口座》

三菱UFJ銀行 神保町支店（普通）2330142 有限会社美学校 [ユ] ビガツコウ

入学規定

資格

各教程のカリキュラムに指示するもの以外、学歴・年齢・性別その他の制限はありません。

期間

授業は5月中旬から翌年3月までの定められた日程に行われますが、その間原則として、7月27日から8月31日まで、12月25日から1月4日まで休みとなります。

入学手続き

入校志望書の提出、あるいは受講申込みフォームからの申込みと学費・教程維持費の納入をもって入学手続きとします。申込みは先着順で受け付け、各教程の定員に達し次第募集を締め切ります。入学手続きをもって本規定に同意したものとします。

定員

各教程の定員はカリキュラムに明示します。ただし、申込者数が最小開講人数に達しない時は開講しない場合があります。

学費および教程維持費

・構成

学費は、授業料、設備費によって構成されます。学費の他に教程維持費がかかります。

・納入方法

学費・教程維持費は、現金、銀行振込、クレジットカード（VISA、MASTER）のいずれかにて、全額を一括でお支払いください。

・割引

過去に在籍記録のある方、二年目以降の受講者は、学費の割引が適用されます。

・返金

一旦納入された学費および教程維持費は以下の場合を除きご返金はいたしません。

- ・定員超過によって受講ができなかった場合
- ・申込み教程が最小開講人数に達せず開講しなかった場合
- ・講師の急病等の理由により開講が困難となった場合

※病気や転勤などのやむを得ない事情により受講をやめる場合は、医師による診断書や勤務先の辞令等の提示があれば、残り授業回数の80%の学費をご返金いたします。

※オープン講座は異なります。当校WEBサイトの「特定商取引法に基づく表記」ページをご参照ください。

・分納

分納を希望する方は、事前に事務局にご相談ください。分納は原則的にクレジットカードによるお支払いのみとなります。クレジットカードのお支払いは一括のみの対応です。ご自身でお支払い方法を分割もしくはリボ払いに設定していただくことにより、分割払いが可能となります。学生の方でクレジットカードの限度額が足りない方は、別途ご相談ください。

在籍証明

教程の3分の1以上を欠席した生徒は、本校に在籍したことを認めない場合があります。

注意事項

申込み内容に虚偽があった場合は入学資格を取り消すことがあります。自己の入学資格および在籍資格を他人に譲ることはいかなる場合も認めません。本校に不利をおよぼし、あるいは、みだりに授業を妨害するなどの行為をした生徒は、本校の指示により除籍される場合があります。

学 費 2025 年度 5 月期 (2025 年 5 月～ 2026 年 3 月)

学費は、授業料、設備費によって構成されます。学費総計の他に教程維持費がかかります。教程維持費(税込)は各教程のページに記載してあります。過去に在籍記録のある方、二年目以降の受講者は、学費の割引が適用されます。

● 1 教程を受講する場合は次の学費となります。

	教程名	授業料	設備費	学費総計 (内、消費税)
A 教程	造形基礎 I	320,000	10,000	330,000 (30,000)
	細密画教場	320,000	10,000	330,000 (30,000)
	生涯ドローイングセミナー	320,000	10,000	330,000 (30,000)
	超・日本画ゼミ	320,000	10,000	330,000 (30,000)
	ペインティング講座	320,000	10,000	330,000 (30,000)
	テクニク & ピクニック	320,000	10,000	330,000 (30,000)
	シルクスクリーン工房	321,000	20,000	341,000 (31,000)
	石版画 (リトグラフ) 工房	321,000	20,000	341,000 (31,000)
	銅版画工房	321,000	20,000	341,000 (31,000)
	版表現実験工房 (銅版画)	321,000	20,000	341,000 (31,000)
	写真工房	321,000	20,000	341,000 (31,000)
	アートのレシピ	320,000	10,000	330,000 (30,000)
	ビジュアル・コミュニケーション・ラボ	320,000	10,000	330,000 (30,000)
	芸術漂流教室	320,000	10,000	330,000 (30,000)
	現代アートの勝手口	320,000	10,000	330,000 (30,000)
	立体・空間制作ゼミ	320,000	10,000	330,000 (30,000)
未来美術専門学校	募集なし	募集なし	募集なし	
B 教程	楽理基礎科	160,500	10,000	170,500 (15,500)
	作曲演習	160,500	10,000	170,500 (15,500)
	魁! 打ち込み道場	160,500	10,000	170,500 (15,500)
	アレンジ & ミックス・クリニック	160,500	10,000	170,500 (15,500)
	出張! パープルルーム予備校	160,500	10,000	170,500 (15,500)
	アンピカミング: シャドーフェミニズムズの芸術実践	160,500	10,000	170,500 (15,500)
	特殊漫画家 - 前衛の道	160,500	10,000	170,500 (15,500)
	劇のやめ方	160,500	10,000	170,500 (15,500)
	建築大爆発	160,500	10,000	170,500 (15,500)
	アートに何ができるのか	160,500	10,000	170,500 (15,500)
	POP ILLUSTRATION 塾	160,500	10,000	170,500 (15,500)
	美楽塾	160,500	10,000	170,500 (15,500)
	ライター講座	160,500	10,000	170,500 (15,500)
	世界のリズムとグルーヴ研究	160,500	10,000	170,500 (15,500)
	楽理中等科	募集なし	募集なし	募集なし
実践! 自己プロデュースと作品づくり	募集なし	募集なし	募集なし	

C 教 程	歌う言葉、歌われる文字	102,200	10,000	112,200 (10,200)
	実作講座「演劇 似て非なるもの」	102,200	10,000	112,200 (10,200)
	意志を強くする時	90,100	10,000	100,100 (9,100)
	サウンドアート・入門と実践	82,400	10,000	92,400 (8,400)
	DTM 基礎～ Ableton Live 編～	75,800	10,000	85,800 (7,800)

- 2 教程を受講する場合は以下の学費となります。
- 3 教程以上の受講を希望する場合は事務局までお問い合わせください。

教程分類	授業料	設備費	学費総計 (内、消費税)
A 教程 + A 教程	499,200	20,000	519,200 (47,200)
A 教程 + B 教程	400,200	20,000	420,200 (38,200)
B 教程 + B 教程	280,300	20,000	300,300 (27,300)

※ C 教程と A、B、C 教程のいずれか 2 教程を合わせて受講する場合の割引はありません。それぞれの学費総計の単純合算となります。

※ 教程維持費は各教程ごとにかかります。教程維持費は各教程のページに記載してあります。

※ 教程維持費の割引はありません。

- 過去に在籍記録のある方、二年目以降の受講者は、下記の通り学費の割引が適用されます。

教程分類	学費総計 → 割引後学費総計 (内、消費税)
A 教程	330,000 → 270,600 (24,600)
	341,000 → 280,500 (25,500)
B 教程	170,500 → 144,100 (13,100)
C 教程 (歌う言葉、演劇 似て非なるもの)	112,200 → 102,300 (9,300)
C 教程 (意志を強くする時)	100,100 → 90,200 (8,200)
C 教程 (サウンドアート・入門と実践)	92,400 → 83,600 (7,600)
C 教程 (DTM 基礎～ Ableton Live 編～)	85,800 → 75,900 (6,900)
A 教程 + A 教程	519,200 → 468,600 (42,600)
A 教程 + B 教程	420,200 → 364,100 (33,100)
B 教程 + B 教程	300,300 → 260,700 (23,700)

※ C 教程と A、B、C 教程のいずれか 2 教程を合わせて受講する場合の割引はありません。それぞれの学費総計の単純合算となります。

※ 教程維持費は各教程ごとにかかります。教程維持費は各教程のページに記載してあります。

※ 教程維持費の割引はありません。

オンライン教程の使用ツールとガイドライン

オンライン教程の使用ツールについて

全てのオンライン教程に共通して授業では主に以下の2つのツールを使用します。

ZOOM —— 授業プラットフォームです。アプリ版の使用を推奨しますが、ブラウザからの参加も可能です。

Discord —— 授業補助として利用するチャットツールです。各教程ごとにクローズドのグループを作成し、そちらで毎回の授業リンクをご案内します。そのほか課題提出、コミュニケーション等のプラットフォームとして使用します。

オンライン教程についてのガイドライン

当校ではオンライン教程の開講にあたって、受講生のプライバシーや個人情報の保護に配慮し、以下のガイドラインを定めています。受講に際しては、下記をご了承のうえお申し込みください。

1) プライバシーと個人情報に関して

- ・授業中の顔出しは任意です。プライバシーが気になる方はカメラをオフにしてご参加ください。
- ・学習目的以外の ZOOM 画面や Discord、講師による共有画面のスクリーンショットはお控えください。
- ・学習目的で講師画面や板書をスクリーンショットする際は、他の受講生が写り込まないよう配慮ください。
- ・スクリーンショット画像の第三者への譲渡や開示、SNS への投稿などは固く禁じます。
- ・Discord 上で行われたやり取りに関して、特に個人情報を含むものは第三者への開示、SNS への投稿などはご遠慮ください。ただし、個人的な感想や意見等についてはその限りではありません。
- ・授業画面のスクリーンショットなどを広報に利用させて頂く場合があります。その際は原則として受講生の画像・画面にはモザイク・ぼかし処理を行い、個人が特定されない形で使用いたします。
- ・Discord 上でのダイレクトメッセージなど受講生同士による個々のやり取りは良識の範囲内で行ってください。他受講生への迷惑行為が確認された場合は即座に Discord の利用を停止いたします。
- ・必要に応じて受講生に授業内容のアーカイブ動画を提供します。アーカイブ動画の第三者への譲渡や開示、SNS や動画サイト等への投稿を行うことはありません。また、同行為を固く禁じます。なお、アーカイブ動画提供の有無については教程ごとに異なります。詳しくは個別の教程ページをご確認ください。

2) 課題作品や配布物について

- ・課題作品は Discord 上の指定されたチャンネルに提出いただき、受講生全員で共有されます。
- ・授業で用いる教材も同様に Discord 上に配布します。
- ・提出された受講生作品や配布物の第三者への開示、SNS への投稿等は固く禁じます。
- ・提出された受講生作品の権利は作者に帰属します。提出された他受講生の作品を参照したり、リミックス等で二次的に使用する際は、お互いに承諾を取り、作品へ敬意を持ってお取り扱いください。

3) セキュリティについて

- ・ZOOM の授業リンクは都度生成し、パスワード保護されます。参加にはスタッフの認証を設けていますので、第三者が無断で入室することはありません。ただし、複数の事務局スタッフが立会いのため予告なく参加する場合があります。
- ・セキュリティ向上のため、ZOOM は最新版をインストールするようにしてください。
- ・Discord グループは受講生と講師、スタッフのみ参加を許可されます。第三者が無断で参加することはありません。
- ・主に Windows 環境において Discord にマルウェア感染被害が報告されています。対策としてアプリケーションの再インストール、或いはアプリをインストールせず、web ブラウザから仮アカウントを用いて使用頂くことで対応が可能です。事前に対策をご確認の上、ご了承の上受講いただけますようお願いいたします。

4) オンライン授業の見学について

- ・本校では受講を検討されている方の授業見学を随時行っており、オンライン授業も同様に見学が可能です。そのため、受講中の授業に見学者が参加する可能性があります。見学者にも受講生と同様に講座を体験していただくため、授業内で配布した資料や受講生の提出作品などは同様に見学者にも閲覧や視聴が許可され、必要に応じてデータが譲渡されます。
- ・見学者による授業内で配布された教材や作品の第三者への開示、SNS への投稿等は固く禁じます。場合によってはデータの破棄にご協力ください。

説明会 / 見学・受講相談

説明会

下記の日程で募集教程の説明会を開催します。受講方法や各講座についての説明に加えて校舎案内を行います。説明会後には個別の入学相談も可能です。各回 90 分程度 / 定員 8 名。会場は本校です。

参加をご希望の方は QR コードからか、メールか電話にてお申し込みください。

※複数の学科に渡って興味がある方は、説明会よりも個別の受講相談がおすすめです。

説明会 申込み QR コード



《絵画、版画 / 写真、美楽塾》

1月25日(土) 19:00 ~ 2月6日(木) 19:00 ~ 3月8日(土) 19:00 ~

《現代美術、様々な分野、美楽塾》

1月21日(火) 19:00 ~ 2月11日(火) 19:00 ~ 3月15日(土) 19:00 ~

《作曲 / 作詞、DTM、ライター講座、世界のリズムとグルーブ研究、現代美術 (サウンドアートのみ)》

1月20日(月) 19:00 ~ 2月9日(日) 14:00 ~ 3月3日(月) 19:00 ~

見学・受講相談

授業見学および受講相談は随時受け付けております。

学校の雰囲気、講座の内容から、どの講座が合っているかなどの個人的なご相談まで、受講をご検討中の方もそうでない方も、お気軽にお越しください。

ご希望の方は QR コードからお申し込みになるか、メールか電話にて希望日をお問い合わせください。

受講相談はオンライン (ZOOM) でも可能です。

見学・受講相談 申込み QR コード



造形基礎Ⅰ

鍋田庸男

定員：12名

授業日：毎週土曜日 13:00～17:00

教程維持費：11,000円（年額）

開催教室：本校

造形基礎とは、形（カタチ）を造る基（モト）という意味です。

形＝カタチとは「表わされ、現れたもの」すなわち表現されたモノです。

一枚の葉っぱを手に持ちます。目で、指先で、肌で、それぞれの記憶と、経験と、知識で、テーマは個々のうちにあつて、無数のカタチをひきだすことが可能でしょう。見て、掴んで、感じて、思索する。表現するということは「カラダまるごと」のことです。

表現とは「もっと、いろいろなこと」であっていい。

ここではまず木炭で描くことから始めます。

上手に描くことではありません。モノ(事)と対峙し、観察し、考察し、記録することです。表現とは、技術ではありません。技倆は、自らの表現と共に成長するものです。まずはじめに大切なことは、技術や描き方ではなく、対象への接し方であり、対象との交流とその共有を楽しむことです。

ボクサーは、はじめに、なわ跳びを繰り返し行います。より強靱な精神、より柔軟な体、的確なパフォーマンスは、そのうえに築きあげられるものです。

対象へのひとつひとつのアプローチの繰り返しのなかから、より自由で、真に独創的な自分のカタチを求めて、表現者としての、最初の意志と体力を、見つけ出し確立してもらいたいのです。

私達が表わす「カタチ」は未知なるものへの冒険です。

やればやるほど、本気になればなるほどオモロイもんです。

今。私達が「やること」は、いっぱいあります。

鍋田庸男

授業内容

- 表現現場に身をおくこと
- 課題をその場で制作する
- 速描画＝短時間にたくさんのドローイング

精神集中、習性の確認と放棄、手の訓練、頭の柔軟体操とオートマティズム

【前期】

◆植物・静物・人体による観・考・描察画
モノを見て触れて表現者としての最初の自覚をうながす

【中期】

- ◆色・形・素材そして対象と表現について
- ◆モチーフそれ自身の設定（表現）
「描く」という行為から「つくる」という表現へ
- ◆切る・貼る（色紙その他）立体もしくはレリーフ

【後期】

- ◆自由制作
ロールペインティング＝つづき絵（絵巻物）の制作

造形基礎Ⅱは「ものづくり」への構想をもって活動します。



講座WEBページ
インタビューやレポートなどを
掲載しています

細密画教場

田嶋徹

定員：6名

授業日：毎週水曜日 18:30～21:30

教程維持費：11,000円（年額）

開催教室：本校

この教場を受講する人の中には、自然科学分野のイラストレーション、例えば植物画、昆虫標本画、動物生態画、古代生物（恐竜等）の復元画などを志す人、それからリアルなイラスト、絵画を志す人、もっと漠然と絵が上手くなりたい人などがいます。（上手な絵＝見えたとおりに描かれた絵と考えるからでしょう。）

どの細密画を目指すにしても、基礎デッサン＝正確なパースと明暗のグラデーションを描く技術＝が必要です。その技術を土台に更に目と描写力の限界を追求するのが私が考える細密画です。

これが細密画と定義された絵のジャンルはありません。細かく密に描かれた絵のこと全般を呼び習わす言い方です。描いた人見た人が細かく密だと感じればそれは細密画で、描き手の思い描く幾通りの細密画があって良いわけです。しかしながら恣意的な主観で描くといわゆる「上手く」は描けません。「上手い」には「誰が見ても」という含みがあるので、人がものを見る時の共通した機構に基づいた絵がそうみなされるのです。「目と描写の限界を探る細密画」はそのメカニズムを土台に更にその先を追求するのですが、基礎デッサンの土台が無いとすぐに行き詰まってしまって先に分け入って行くことが出来ません。形が正確に取れるとその限界値を描く度毎にどんどん更新して行く体感を味わえます。言わば恣意性を徹底して排した客観描写ですが、にも関わらずその絵にはあなたのガラが現れます。その経験とあなた自身も初めて見るであろうあなたの「柄」は、その後のあなたなりの「幾通りの細密画」の基になるでしょう。

細密画を描いてみたいけれど基礎デッサンの経験が無いという人に向け「細密画のための基礎デッサン講座」（毎週木曜日 18:30～21:30）を設けます。細密画教場受講者は追加料金無しで受講できます。どちらの講座も1～2回の見学・体験が可能ですので受講を検討される方にはまずは体験をおすすめしています。ご希望の方は事務局までお問い合わせください。

私の普段の仕事はこちらを見てください。

<https://twitter.com/tajimaminiature>

<https://www.instagram.com/tajimaminiature/>

田嶋徹

授業内容

下書き

- ・モチーフをどの大きさと描くか、から始めて細部いたるまで、フリーハンドでかたちをとる技術
- ・道具を使ってモチーフを計測して描く技術

鉛筆

- ・明暗の階層表現、質感表現の技術

水彩

- ・色調表現、質感表現の技術

その他

- ・平面画像の模写
- ・不透明絵具の描法

【生徒持ち用具・材料】

鉛筆各種・カッターナイフ・芯研ぎ器・練りゴム・消しゴム・羽ぼうき・スケール定規・比例ディバイダー・トレーシングペーパー・カーボン紙・ケント紙・固形透明水彩絵の具各色・コリンスキー筆・ベニヤ板・水張りテープ・刷毛・アルシュ紙極細目・筆洗い器・梅皿
その他



講座WEBページ
インタビューやレポートなどを
掲載しています

生涯ドローイングセミナー

丸亀ひろや (+O JUN+宮嶋葉一)

定員：10名
授業日：毎週木曜日 18:30～21:30
教程維持費：11,000円(年額)
開催教室：本校

紙に鉛筆などのモノクロの画材で線を引き、物や人物、情景や物語を描き出すこと。これらは“デッサン、素描”と呼ばれています。それに対してこのセミナーは“ドローイング”と称して、より多様な表現を指向しています。

Drawing と書いてドローイング、“線を引く。図面”などを意味します。紙などに鉛筆やペン、水彩などで描かれた表現形式を言います。あえて英語の表記を使ったのは20世紀後半からの新しい流れ、具象的な再現に留まらない表現への含みをもたせるためです。

“なにをどう描くか”が最初のテーマであり、長い道程の指針でもあります。

好きなものや惹かれることを観察して描いてもよいし、見えない何かを描き出してもよい。風景を描いても、人物の姿に迫ってもよい。取りあえずそこにある画材をつかんで手を動かしてみる。色を擦りつけた紙がどんなものかやってみる。自らの“描く”を問うてもよいし世界の不思議を追って迷い込んでよい。しかし、最初のテーマ“なにをどう描くか”に、あなたは答えを出すために多くの時間を費やしてしまうでしょう。自身がひねり出した答えは、あなたを思ってもみない方へ連れ出してしまうかもしれないし、ひょっとしたら一生果てしなく続くものになるかもしれない。

“なにをどう描くか”は、心と体がそうであるように頭で考えるだけではだめで、なかなか自由にはなりません。しかも、あなたと世の中も常に変化し続けていますよね。なので、敢えてそれは答えのない“長い道程の指針”でしかないと付け加えておきたい。

今ここでの身体の感触とそこに現れた線、かすれ、滲み。描き出されたもの。その紙の表面とあなたの身体全体は、その出来事の『場』なのです。身体全体でみる、自らが起こした出来事を自らが体験する。こんなことに戸惑い、困惑するかもしれません。下手をすると成果が無く数か月が過ぎることもありますが、あせらず一緒に描く題材、視線、方法を探っていきましょう。停滞と混濁の時さえ興味深く味わうような場となればと願っています。

参加される方の目的もさまざま、手軽にできる、いろいろ試せるなどの期待もあるでしょう。未経験の方から経験者まで幅広いキャリアの方々が講座へ参加されるのを期待しています。

週に一回ドローイングの実習を行います。そのために各自持参するものは、紙と、油彩以外の画材や筆記具(水彩、墨、鉛筆、クレパスなど)です。尚、画材については随時その使用法や種類の説明をします。また、一年間の実技演習において“描くこと”と“描かれたもの”の意味をたえず自らに問いながら描きためたドローイングで“マップ”(ドイツ語のファイルの意。当ゼミではドローイングブックを意味する)を制作し、卒業制作展を行います。

丸亀ひろや

講師体制について

丸亀さんがメイン講師として毎週の講座を担当します。OJUNさんは年に2～3回ほど各学期末に参加予定です。宮嶋さんは長期療養中のため参加は未定です。

丸亀ひろや

1961年熊本県生まれ。1986年東京造形大学造形学部美術学科卒業。66-90年ドイツ・デュッセルドルフ美術アカデミー絵画専攻。91-94年ドイツ・デュッセルドルフ大学美術史専攻。おもに平面作品を制作。目の前の対象や印刷物の図像から抽象的な事柄まで様々なテーマを雑食的にドローイング、そこを足掛かりにした絵画作品は抑制が効いているがどこか即興の愉楽がある。

OJUN

1956年東京都生まれ。1982年東京藝術大学大学院美術研究科油画専攻修士修了。1984-85年スペイン・バルセロナ滞在。1990-94年ドイツ・デュッセルドルフ滞在。絵画・ドローイング・版画と、さまざまな媒体の平面作品を制作し、身の回りの日常的な対象を自身の視点で新鮮に捉え、その絶妙な線や色、空間は、見る者に新たな視点を与える。

宮嶋葉一

画家。1954年大阪府生まれ。1982年東京藝術大学大学院美術研究科油画専攻修士課程修了。1988-98年ドイツ・デュッセルドルフ滞在。具体的な対象をモチーフに簡略化された線と強いストローク、対象に意味を持たせないスタイルが特徴。簡素化された構造と内包するユーモアのセンスが楽しめる作品を一貫して制作。



講座WEBページ
インタビューやレポートなどを
掲載しています

超・日本画ゼミ（実践と探求）

間島秀徳＋小金沢智＋香久山雨

定員：10名
授業日：毎週土曜日 18:30～21:30
(毎月第三週は日曜日 13:00～17:00)
教程維持費：11,000円(年額)
開催教室：本校

日本画を学ぶということは、素材や技法を習得することに留まらず、絵画原理を探究することです。しかしながら現在は、美大での日本画教育が一般的であり、課題から自由制作へ至るカリキュラムは画一化されたものとなっています。

かつて日本画を学ぶ場では、小規模な塾制度の中で日々修練を重ねていました。時代背景こそ異なりますが、現代に応用することは可能なはずですが。

本講座では、自立した作家として歩み出せるように、課題に真剣に取り組むだけでなく、さらに実践のための可能性を探究し続けます。具体的には個別の面談に始まり、作画意識の確認をします。その後は毎回講義と実践がスタートすることになりますが、内容は基礎素材論(支持体、描画材、色材等)に始まり、技法や模写についても習得の方法を探っていきます。他には写生や下図などの、絵画制作に必要な準備の方法を習得するために、古典から現代までの作家や作品研究をゼミ形式で随時開催します。

教室での制作時間は限定されますが、毎月講評会を開催します。ここでは講師が一方向的に語るのではなく、作者は作品についてプレゼンを行い、参加者全員がディスカッション形式で意見を述べ合います。

超・日本画ゼミでは、今の時代を作家として生き抜くために、あえて超という言葉をつけました。飛躍のためには徹底した探究が必要です。経験、未経験は問いませんので、やる気のある方は是非参加してください。

間島秀徳

超・日本画ゼミは、「あなた」の美のための現場です。ここでは、あなたがどのような人で、何をしたいと受講しているのか、ということ大切にしています。日本画にまつわる素材・技法、歴史・理論の知識、日本画をはじめとする絵画経験を問わないのは、描くための知識・方法とはそもそも個人的な検討が必要であり、超・日本画ゼミはその地点からともに考えることを重視しているからです。そのためには、自他を見つめることが必要であり、その過程に、知識の学習・取得、未知の方法の実践・練習、同じゼミ生とのディスカッション、はたまた遠方への遠足・合宿があります。不思議に思われる人も多いですが、超・日本画ゼミは、必ずしも毎回描く時間を設けていません。講師とゼミ生が、自分自身を超えようと「描くこと」「考えること」「知ること」を通して切磋琢磨する絵画の現場——それが超・日本画ゼミです。

小金沢智

超・日本画ゼミでの体験を通して、ご自身の核となる「何か」に触れてほしいと強く思います。

日本画というキーワードから日本画材という材料にいたるまで、皆さんがこのゼミに興味を持ったきっかけは多岐に渡っていることでしょう。中には「なんとなく気になったから」受講してみようと思っている方もいるはずですが。この、「なんとなく」という感覚を本当に大切にしてください。ささやかで見過ぎてしまうほど小さな興味関心が、作家として歩いていく旅路への招待状なのです。

私は2年間に渡り、超・日本画ゼミに受講生として在籍しました。美大を出てから何年も模索する中、作家として確かな軸を構築するきっかけをくれたのが他ならぬこの場です。受講していなかったら、今の私は確実に存在していません。

ぜひ、気軽に門戸を叩いてみてください。私達は皆さんの旅路を精一杯サポートします。

香久山雨

授業内容

基礎素材論

- ・支持体(和紙、布、板等)
- ・描画材(筆)
- ・色材(岩絵具、水干、アクリル等)
- ・接着剤(膠、アクリル樹脂等)
- ・墨、硯

制作(個別面談随時)

- ・講評会(毎月)
- ・写生、下図研究

古典絵画から現代絵画まで

- ・技法(水墨等)
- ・模写(臨写他)
- ・作家研究
- ・作品研究
- ・読書会
- ・修了展

客員講師予定

- ・美術評論家
- ・美術館学芸員
- ・美術史研究者
- ・伝統職人
- ・現代作家

研修

- ・美術館、博物館見学
- ・ギャラリー見学
- ・筆工房、紙漉き工房見学
- ・古美術研修(国内、海外)
- ・自然研修(海、山)



講座WEBページ
インタビューやレポートなどを
掲載しています

ペインティング講座 - 油絵を中心として

～絵を見て、考えて、描く

そして自分の絵を描く～

長谷川繁＋ゲスト

定員：昼枠 7名 夜枠 5名

授業日：6月から開講

昼枠 毎週木曜日 13:00～17:00

夜枠 毎週木曜日 18:00～21:00

※ 8月も授業を行う可能性があります

教程維持費：11,000円（年額）

開催教室：本校

長谷川繁

1963年滋賀県生まれ。1988年愛知県立芸術大学大学院絵画科油画専攻修了、1989～92年ドイツデュッセルドルフコンストアカデミー、1992～94年オランダアムステルダム デ・アトリエーズ在籍、1996年帰国。東京を中心に個展、グループ展多数。帰国後自由が丘に展示スペースを設立し2004年まで若手アーティストの展覧会を企画続した。

「絵を描く」ことは誰にでも出来ることであるし、一番根源的な表現の一つである。画家はもちろんファッションデザイナー、建築家、映画監督、アニメーター、パティシエ、様々な職業の人が、まずは絵を描きイメージーションを具体化させ発展させていく。どんな材料でも良いし、紙とペンがあれば何か描ける。そんなシンプルなことであるが故に、やればやるほど奥が深く掘っても掘っても尽きない面白さと難しさがある。そして何より「自分の絵」というものを見つけて描くことが一番難しいことである。

二十世紀以降の絵画はどんどん複雑化し、ひと言では言えないくらい内容も意味も材料も多岐にわたり多様なモノになってきた。写真のように見えたままを写すことだけでもなければ、単に美しいものを描くだけでもない。感情をぶつけるものもあれば、色が一色だけの絵もある。描く人の数だけ違う価値観の絵があるとも言える。そんな中で自分は「何」を「どのように」描くのだろう。

これから絵を描くことを始める人も描いてきた経験のある人も、あらためて考えながら自分の絵を探していけるような時間にしたい。絵を描くのと同時に「私は何故絵を描くのか？」と「どのような絵を描きたいのか？」の両方を考えながら絵に向かっていきたい。

絵を描くための様々な材料、基本の技術、絵の中身、考え、を会話をしながら探っていく作業をしたい。

かと言って気難しいものでもない。肩の力を抜いてかかった方が、より自分らしいものになることもある。失敗したって次の紙、次のキャンバスにすれば良いだけだし、痛くも痒くもない。そこが良いところでもある。

油絵を中心としながらも、アクリル絵の具、水彩なども含めて幅広い表現を試みていながら素材自体も自分で選んで絵を描いていく時間にできれば、と思っている。気楽に何でも挑戦して、質問して、話し合っ進めていける場としたい。

どんな人でも絵は描ける。気楽にやってみませんか？

長谷川繁



講座WEBページ
インタビューやレポートなどを
掲載しています

テクニク&ピクニク

～視覚表現における 創作と着想のトレーニング～

伊藤桂司

本講座では、グラフィック、デザイン、イラストレーション、美術などの創作における技術の獲得（テクニク）と楽しさの探求（ピクニク）を目的としています。

この講座では、緊張やストレスから遠く離れ、“創る喜び” “壊す快感” “身体感覚” “『偶然』の重要性” と言ったキーワードを中心軸に据え、シンプルながら多様なアプローチを試みます。

人間はリラックスした状態が一番能力を発揮できるとシュタイナーも言っていますが、受講生の方には、この講座を通して自らの内に潜む才能の“原石”を発見してもらえればと思っています。

授業内容の一例

- ・ テンプレートと定規のみを使って描く風景・人物
- ・ コラージュ
- ・ パースペクティブによる空間認識
- ・ 模写
- ・ ZINE の制作
- ・ インプロヴィゼーション（2～3人のチームで即興的に大きめの支持体に絵を描く）
- ・ 画材の実験（同じモチーフを異なる画材で描き、画材の特性を再認識・再発見）
- ・ ブラインドドローイング（目を隠して音楽を聴きながら、音から連想されるイメージを描く）
- ・ 3ミニッツドローイング（その場で聞いた言語のイメージを3分間で描く）
- ・ 古本、中古レコードのカスタマイズ（神保町で入手した古本、中古レコードにコラージュしたり、落書きしたり、ペイントを施したり、自由な発想でカスタマイズし、世界に一つだけのアートピースを創る）
- ・ インプットとアウトプット（影響を受けた作家を再研究し、その方法論を援用した作品制作を試みる）

など他多々

定員：10名

授業日：毎週月曜日 19:00～22:00

教程維持費：11,000円（年額）

開催教室：本校

伊藤桂司

1958年東京生まれ。'80年に雑誌“JAM” “HEAVEN”でのデビュー以来、グラフィックワーク、アートディレクションを中心に活動。2001年東京ADC賞受賞。テイ・トウワ、スチャダラパー、キリンジ、バッファロー・ドーター、高野寛、ohana、オレンジペコー、愛知万博EXPO2005世界公式ポスター、イギリスのクラヴェンデール、SoftBankキャンペーン他多数のヴィジュアルを手掛ける。

「四次元を探しに / ダリから現代へ」（諸橋近代美術館）など他数々の国内外展示に参加。個展多数。作品集に『LA SUPER GRANDE』（ERECT LAB.）、『DAYS OF PAST FUTURE』（Alex Besikian との共著）他多数。京都芸術大学大学院教授。UFG代表。http://site-ufg.com/

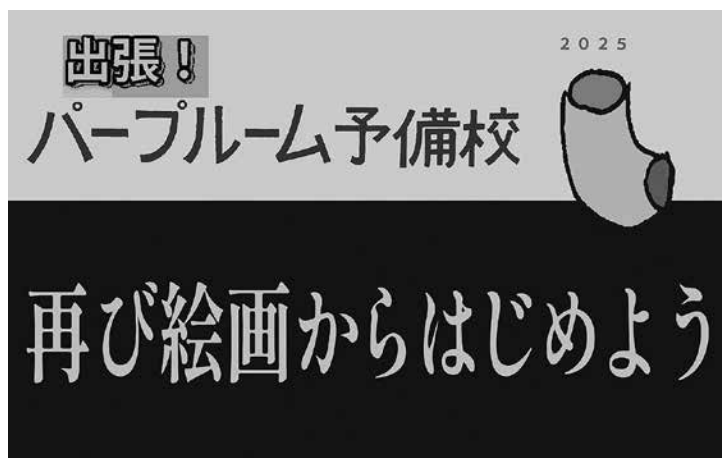


講座WEBページ
インタビューやレポートなどを
掲載しています

出張！パーブルーム予備校 再び絵画からはじめよう

梅津庸一

定員：8名
授業日：隔週金曜日 13:00～17:00
教程維持費：11,000円（年額）
開催教室：本校



梅津庸一（美術家、パーブルーム主宰）
絵画、版画、陶芸、映像、展覧会企画、ギャラリイ運営、批評など多岐にわたる活動を展開。

主な展覧会に「ポリネーター」ワタリウム美術館（2021年）、「パーブルータウンでパープリズム」相模原各所（2018年）

パーブルーム

2014年に本格始動したアートコレクティブ。美術における制作と運営を実践する。興味を持った方はYouTube「パーブルームTV」で雰囲気を感じていただければ。

私塾を兼ねたアートコレクティブとして知られるパーブルーム。けれどもコロナ禍以降は「集まる」こと自体が困難になり「制作と生活」をシームレスに接続してきたパーブルームの集団としての表だった活動は停滞してしまいました。コロナがひと段落した今、そろそろスクール部門を再開したい。

そこで、このたび戦後日本の美術を教場として支えてきた美学校を舞台にパーブルームの講座を開くことにしました。本講座では絵画を中心に据え制作から実践までを学びます。昨今、現代アートはしきりに多様性、多元性を謳いますが「政治」と「美学」に二極化しており、さらには批評が機能していないのが実情です。そして殊に絵画においてはマーケットの力学に翻弄され、もはやお金持ちのためのインテリアや投機対象として消費されています。そんな現状を踏まえ、いま一度絵画にまつわる諸問題と可能性を掘り起こし「つくる、描く」の意味を考えます。本来であればオーソドックスで身近な形式であるはずの絵画ですが特有の文脈やトレンドなども絡み合い、なかなか現在地が見えてきません。そこで本講座では「絵画の見かた」「制作のメソッド」「展覧会づくり」「鑑賞&現状リサーチ」を通して受講者それぞれ個別のマッピング、方法論の構築を目指します。

再び絵画からはじめよう。

授業内容の一例

美術批評家の不在が嘆かれて久しいですが、そもそも批評的価値は誰から授けてもらうものなのでしょうか？いや、もはやそれどころではなく美術のインフラ自体が地盤沈下を起こしジャンルとしての体裁を保つことすら困難な状況になりつつあります。

本講座では絵画を起点に今一度美術の在り方を考えます。全体を変えることはできなくとも自分なりの価値基準の物差し、あるいは持続可能な活動の下地をつくることはできるかもしれません。制作だけでなく座学、個人面談などを通して総合的に絵画に紐づくあれこれを探求します。さらにゲスト講師として梅ラゴ、坂本夏子、佃弘樹、安藤裕美などの作家をお呼びし、それぞれのノウハウや活動を紹介します。そのほかにも美術調査員の筒井宏樹やキュレーターなどによる講義も予定しています。さらに町田の「版画工房カワラボ」で現場実習を行い作家と工人の力学や絵画の固有性についても考えます。

主につくり手のための講座ですが書き手やギャラリスト志望の方にもおすすめします。ちなみに制作の経験者でなくても受講できます。



講座WEBページ

シルクスクリーン工房

松村宏

定員：10名
授業日：毎週月曜日 13:00～17:00
教程維持費：30,800円（年額）
開催教室：本校

シルクスクリーン工房はプロフェッショナルとして立てるだけの技術を獲得し、版画にとどまらず、美術、デザイン表現の可能性を広げようとする工房です。

カリキュラムは厳しくも、バラエティに富んだ設定にしております。まずは基本的なトレーニングから始めましょう。手刷りですし、全ての工程を自身で進めることになります。1年をかけて制作作業を自分のカラダに覚えさせてください。

創作のアイデアは今までに見聞きしてきた情報からではなく、作業を進める行為、殊に失敗の中から現れます。経験の有無よりも、粘り強い気持ちが求められます。

授業は週に1度ですが、1年間集中してシルクスクリーンに取り組みましょう。困難を乗り越える喜びを共有できる場でありたいと考えます。

松村宏



授業内容

【前期】

○シルクスクリーンプリント概論

○資材各論

写真製版法

感光製版材の研究

課題 I

フィルム・カッターワークへの習熟

課題 II

描画フィルムの製版

【夏季休暇・色彩研究課題】

【中期】

写真製版以外の製版法

素材・紙・インクの対応研究

課題 III

原紙の活用

課題 IV

ブロッキング法・フロッタージュ他

【後期】

各自の方向により、

カラージュへの展開

ファブリック他の素材への対応

【生徒持ち用具・材料】

アルミ枠・スクリーン・製版用具・感光製版材・カッター・砥石・スケール・版画用紙・水彩絵具 等



講座WEBページ
インタビューやレポートなどを
掲載しています

石版画（リトグラフ）工房

佐々木良枝＋増山吉明

定員：10名

授業日：毎週火曜日 13:00～17:00

教程維持費：20,900円（年額）

開催教室：本校

石版画（リトグラフ）は、平版の版画です。平らな版材の上に油成分を含む画材（墨、クレヨン、鉛筆等）で描いたものを直接版にして刷ります。クレヨンや鉛筆で描いたドローイングの自由な線や風合いを出すことができ、また、筆やペンで描いた水彩画のタッチやにじみ、複雑な色合いを出すこともできます。版画の技法の中でもっとも絵画に近いといえます。

石版画（リトグラフ）は水と油が反発する原理を応用し、描いた絵を化学変化させて版にし、描画部分にのみインクを付着させ、プレス機で刷ることで絵を創ります。化学変化をさせて作る版である為、描かれた画面が自分の意に反して、抑揚の無い平板な調子の乏しいものになったり、絵が壊れたりすることもあり、「描き」「版作り」「刷り」の技術や知識を習得する必要があります。

当工房では、石の版を使って技法を学びます（特殊な石であることや作業に水場など必要なため、石を使っての作画が出来る工房はあまりありません）。石の版、また、金属版（アルミ版）、を使った技法やP S版による写真製版技法も学びます。それぞれできあがる版の具合が違うので、特質を知り、活用できるとより幅広い表現方法を持つことができます。

石版画（リトグラフ）は、さまざまな"描く"で自分の絵画表現を探究することが可能です。描くでも版を媒介とするので、思いがけないものにも出会ったりする喜びがあります。自分のイメージに接近していくには、手を動かし絵を描き、絵を創りあげていくことです。そうすることで、自分の方法を見つけていけるのではないのでしょうか。

佐々木良枝

授業内容

【前期】

- 石版による制作（石の研摩・描画・製版・刷り）クレヨン画、ペン画、解き墨画
- P S版（写真製版）による制作（描画・感光製版・刷り）カラージュ、フロッタージュ、ドロッピング等

【中期】

- 石版石による制作
- P S版多色刷りによる制作
- 表現について考え、自分の表現方法の模索・構築
- アルミ版による制作

【後期】

- 自由制作
- 制作発表の方法論学習（作品の見せ方、空間づくり等）

【生徒持ち道具・材料】

描画材料 クレヨン・解き墨・筆・インク・アルミ版・P S版その他
版画用紙 あて紙・試し刷り用紙・本刷り用紙

表現のために／自分を貯める一構築する

- 探し取材する・切り取る・決める・盗み取る等の作業

「かわいい」「きれい」「かっこいい」「おもしろい」自分が心惹かれるもの、おもしろいもの…自らを動かさうる動機（モチーフ）

- よく観察する・考察する・認識する
何故それがいいか、どんな方法だから、こんな風に見えるのか、自分の嗜好、好むものをより認識する

- 言葉にする

観察して、考察して認識したものを言葉にする。思考し、曖昧とした考えを明確化する、潜在意識が引き出される

記憶は薄れる、言葉にしたものは残る

人に自分の言葉を示し、人とディスカッションすることで、より明確化し、付け加えられる

- 貯めていく

貯めたものを増やしていく、連想を広げ、よりイメージ化する、たまった情報を編集する。どんな表現方法で何を表現するか思考する／一つの表現方法として、この工房では、リトグラフを制作する。



講座WEBページ
インタビューやレポートなどを
掲載しています

銅版画工房

上原修一

定員：10名

授業日：毎週木曜日 13:00～17:00

教程維持費：20,900円（年額）

開催教室：本校

銅版画という方法を使った「絵」を制作します。

銅版画の特徴として、ひとつは凹版画であることがあげられます。

もうひとつは、ほかの版種と同様に「版」を用いた間接表現であることです。約1ミリの厚さを持った銅の板の表面に、何らかの技法で点や線を刻みつけます。

制作者のイメージや意図に基づいて点や線が刻みつけられた瞬間に、銅の板は「版」に変わる。その、点や線（凹部）に銅版画用インクを詰め、紙に絵柄を刷り取ります。

大切なのは、いかに美しい版を作るかではなく、その版を通して刷り上げられたもの（つまりは作品ですが）が「表現」になっているかどうかということです。

直接描いたのでは決して得られない点や線、あるいはマチエールを生み出す力を銅版画は持っています。

あくまでも基本的な銅版画の技法に拘りながら、さらにその可能性について考えていきます。

授業の前半期では、ドライポイント、エッチング、アクワチントといった銅版画の基本技法と、インクの詰め、拭き、修正、プレス機の取り扱いなど、刷りの基本技術とを学びます。なるべく早い時期に、工房での自習が出来るスタンスを確立します。

後半期は、ディープ・エッチング、ソフトグラウンド、写真製版、コラグラフなどの版作りの応用技法と、多色刷り、雁皮刷りなど様々な刷り方について学びます。多様な銅版画のテクニックを、体験則としてひと通り知って貰うためのプログラムを展開します。

ときどき合評会もやります。けれど、課題のようなものを求めることは一切しません。

作りたい人の作りたい気持ちを最優先に実現できる、本当の意味での自由な工房を目指しています。

受講生同士はもちろん、受講生と講師も、忌憚なくお互いを評価、批評し合える関係でありたいと思います。

確信的なものでも、あるいは全く漠然としたものでも構いませんが、銅版画に対する憧れを持った人の受講を望みます。ここは一度嵌まったらとにかくなかなか深い場所です。

上原修一



クラウン

エッチング、アクワチント、ドライポイント、コラグラフ
558mm × 450mm
ed.12, ap.3 2版2色刷り サマセット紙



テーブルの下の私の荷物

エッチング、アクワチント、ディープ・エッチング、ソフトグラウンド、コラグラフ
725mm × 593mm
ed.2, a.p.なし 17版2色刷り 雁皮漉き合わせ紙



講座WEBページ
インタビューやレポートなどを
掲載しています

版表現実験工房（銅版画）

清野耕一

定員：10名
授業日：毎週水曜日 18:30～21:30
教程維持費：20,900円（年額）
開催教室：本校

銅版画（凹版）の制作は、薄い銅版表面で繰り広げるマイナスの作業といえます。直接鋭利なニードルで引掻いたり、強酸の力で腐食（エッチング）したり、様々な薬品や道具を使い随分と手荒なプロセスを踏みます。このように出来上がる銅版の原版は、その凹部に詰められたインクとエッチング・プレス機の物凄い圧力によって、最終的に紙の表面に反転しプリントされます。……この瞬間、皆さんは銅版画の表現効果に魅了されるでしょう。鋭く自在な線、微妙で繊細な濃淡面、重厚な質感。

……その転写されるイメージは、ドローイングやペインティングと全く異なるからです。

世界的なIT化とグローバル化が急速に進む中で、私達の日常生活にも「デジタル・カルチャー」が浸透し大変化をもたらしています。「効率化・便利さ」を追求する社会的なうねりは、一方で機械に頼りながら、汚れ仕事を嫌い、面倒くさいことを避ける行動を私達に植え付けていると云えるかもしれません。「自らの手を使い、身体を動かし、汗を流し悪戦苦闘する姿勢」を拒む風潮の中で、大切な何か失われようとしていないでしょうか。

「版表現実験工房」は、そんな問いに対応しながら、初心者のみならず、銅版画や他版種の経験者にも門戸を広げる場です。銅版画制作のための技術力を習得するだけでなく、直接銅版と触れ合うことによってモノ作り本来の楽しさを体験し、美術表現を創造する「発見」の場を目指します。同時に、絶え間ない地道な制作を通じて「自己を見つめる姿勢を培うこと」に重点を置きたいと考えています。

従来の「オリジナル版画」（平面・複数性を土台とする版画表現）の垣根を取り払い、柔軟に他のメディアとの交差を図り、新たな表現スタイルを研究し模索する実験的な制作現場になることを目標とします。この工房の参加者は、より積極的な制作意欲と発表の機会設定が求められます。

参加者の年代・経験・背景を超えて「互いが刺激・影響し合える制作現場」になることを期待します。

清野耕一

授業内容

【前期】

彫刻技法の基礎研究と制作（ドライポイント・メゾチント）

腐蝕技法の基礎研究と制作（エッチング・アクアチント）

☆前期講習会

【中期】

腐蝕技法の応用研究と制作（リフトグラウンド・ソフトグラウンド）

刷り技法の応用研究と制作（雁皮刷り・凹凸版刷り・多色刷り）

☆中期講習会

【後期】

写真製版技法の研究と制作（フォトエッチング）

併用技法による自由制作

☆後期講習会

【研究課題】

- A) 複数性と間接性
- B) 版の表面性と被写体
- C) 3次元の平面構成
- D) メディア・ミックス

【生徒持ち道具・材料】

銅版・版画用紙・ニードル・スクレップ
パー・バニツシャー・作業着・腐蝕用
ゴム手袋 他



講座WEBページ
インタビューやレポートなどを
掲載しています

写真工房

西村陽一郎

定員：10名
授業日：毎週金曜日 13:00～17:00
教程維持費：20,900円（年額）
開催教室：本校

モノクロフィルムや印画紙などの感光材料を使って、昔ながらの銀塩写真の基礎を学ぶ工房です。暗室作業が中心です。光と感光材料の関係、カメラの持ち方やフィルムの入れ方など、初歩的なところから順を追って実習を進めていきますので、まだフィルムカメラを持っていないという初心者の方でも大丈夫です。

基本的にピントや露出はマニュアルで撮影します。慣れない操作に手間取って初めは思ったような瞬間が撮れないかもしれません。またフィルムや印画紙、薬品類など銀塩写真で使用する材料はデリケートなので、丁寧に取り扱いあげなければせっかく写した光も、きちんとした像（かたち）となって現れてはくれません。ある程度のクオリティでモノクロ写真を撮影しプリントができるようになるまでには少し時間がかかることを覚悟して、まずは自分で撮った写真を自分で現像し、引き伸せるようになりましょう。そして毎週1回、これをコツコツと続けて下さい。一通りのやり方を覚えたら、学校の暗室は授業日以外も自由に使えるようになりますので、やりたいひとは何度でも、納得がいくまで制作をする事ができるでしょう。

大切なのは、自分の好きな写真をなるべくたくさん撮って、たくさんプリントする事です。

一年間あっという間だと思いますが、皆で共に楽しみながら、真剣に写真と取り組んでいきましょう。

西村陽一郎

授業内容

【前期】

- ・暗室体験
（フォトグラム、サイアナタイプ、ピンホール）
- ・モノクロ写真の基礎
（撮影、現像、ベタ焼き、プリント、スポッティング）

【中期】

- ・作品の仕上げ方
（ドライマウント・マッティング）
- ・暗室実習
（号数合わせ、焼き込み&覆い焼き）
- ・撮影実習
（フラッシュ、クローズアップ）
- ・中判カメラ

【後期】

- ・大判カメラ
- ・調色
- ・作品制作

【生徒持ち道具・材料】

35mm 一眼レフカメラとレンズの他、感光材料と薬品、整理・保存用品などの消耗品



講座WEBページ
インタビューやレポートなどを
掲載しています

アートのレシピ

～松蔭浩之のラディカル・ヒストリー・アワー

松蔭浩之＋三田村光土里

せっかくだから、ちょっと変わったことを言っておこうと思います。いや、そもそもこの「変わったこと」について思いを巡らせること、人のやっていないことを考えだして、ひねりだして形にすることこそが ART の真髄なんで……その、「変わったこと」ですから、最初は全くもって理解不能かも知れず、あなたの普段の価値観とか常識とか正義感とか人生設計とかとはけっこうズレたりしているかもしれない。けれども、気持ち次第では実に面白可笑しい人、作品、出来事、あなたのきつと知らない古今東西の本物の変わりモノを紹介しつつ、やはり「変わった」考え方、見方、とらえ方をすることで、新しい刺激的な経験になりうるというお話を長い間続けていきます。

例えば、100年ちょっと前になりますが、ヨーロッパで起こった反芸術活動『DADA』と、1960年代に日本で制作放送された子ども向けテレビ番組『ウルトラマン』との関連を考察し、「怪獣」を解剖してみるとか、'80年代初頭に全世界的に突然変異のように起こった、DIY精神に満ちあふれたロックバンドやミュージシャンたちの奇跡から学ぶとか、私が19歳から3年間師事した森村泰昌はじめ、先人たちから培って確立した「私の写真論」をもとにセルフポートレイトを実践する……など、松蔭浩之の自分史における、ラディカルな事象を吟味検証して紹介、流行り廃りに左右されない普遍性の探求、その追体験と伝承、すなわち、ラディカル・ヒストリー・アワーを共有することが、この講座最大の特徴です。

この『レシピ』では、俗にいう「現代アート」に限らず、音楽、映画、サブカルもアングラも含めた文化全般を視野に入れた講義、ワークショップを実施します。かならずしもアーティストを養成することが目的ではないですが、節々でアートの実践を体験してもらうことで、クリエイティビティー（＝創意工夫）の本質を知ることを目指します。

不定期に開催の「三田村光土里のときどきアートサロン」では、三田村光土里が豊富な経験とインスピレーションで、制作のお悩みをコンサルティングします。

変わったことが好きではない。もしくは、変わることを恐れる方にはおススメできませんが、好奇心おう盛で柔軟な思考性を持つあなたには最適の講座になることでしょう。

定員：12名

授業日：毎週土曜日 13:00～17:00

教程維持費：11,000円（年額）

開催教室：本校

松蔭浩之（まつかげひろゆき）

現代美術家、写真家。福岡県出身。

1988年大阪芸術大学写真学科卒業。

1990年アートユニット「コンプレッソ・プラスティコ」でベネチア・ビエンナーレに世界最年少で選出される。以後、数多くの国内外個展やグループショー、シンガポール・ビエンナーレ（2006年）ほか国際芸術祭に参加。写真作品を中心にインスタレーション、パフォーマンス、ミュージシャン、執筆、グラフィックデザイン、俳優、映画監督など多岐に渡って活動を続ける。アートグループ「昭和40年会」（1994年結成。現メンバーは会田誠、有馬純寿、小沢剛、大岩オスカル、バルコキノシタ、松蔭浩之の6人）では会長を務める。

宇治野宗輝とのロックデュオ「ゴージャラス」（1997年結成）では国内外でのライブを盛んに行った。また、2016年に再始動したポストインダストリアルグループ「PBC」（1987年結成）でも演奏活動を続ける。俳優としては金子雅和監督『アルビノの木』など数々の作品に出演。監督作品は、画家の会田誠を主演に起用した『砂山』（2012）、若林美保主演の『LION』（2018）がある。

三田村光土里（みたむらみどり）

愛知県生まれ 東京在住

「人が足を踏み入れられるドラマ」をテーマに、写真や映像、言葉や日用品などの多様なメディアで構成した空間作品を国内外で発表。私的な追憶から浮かび上がる不在感が、日常の哀愁や感傷を観る人の内側に投影する。

世界各地で人々と朝食を共にする滞在制作「Art & Breakfast」では、フィールドワークで集めた材料でインスタレーションを作り続け、文化的境界を越えて共感する価値観をユーモアと批評的な眼差しで俯瞰する。

2003年、日本の新進作家展・vol.2（東京都写真美術館）。

2005年、文化庁新進芸術家海外派遣（フィンランド三都市巡回個展）。2006年、ウィーン分離派館・セッションにて個展。2011年、二国間交流流事業プログラム派遣（メルボルン、オーストラリア）、あいちトリエンナーレ2016。2017年、ウィーン美術アカデミー 滞在招聘作家。2019年、Japan Unlimited 展（ミュージアム・クォーター・ウィーン）、他多数。



講座WEBページ
インタビューやレポートなどを
掲載しています

松蔭浩之

ビジュアル・コミュニケーション・ラボ ～ゼロから始める現代アート制作～

齋藤美奈子

この講座は、作品制作を中心に、現代美術に関する講義をはさみながら進めていきます。最終的に、それぞれがテーマを見つけ、美術作家として創作していくために必要な力を身につけることを目的としています。

みなさんの興味や関心、あるいは、心のなかにある大切な何かを拾い上げて、どんなふうでも構いません、それを目に見える形にしてみる。まず、そこからスタートしましょう。そして、それを、より明確なものにしていく作業を繰り返して行きます。"作品"と呼ばれるものは、そうして出来上がったもののことをいうのだと思います。

具体的な表現手法は、インスタレーション、立体、絵画、写真、ビデオなどといった、さまざまなものを試みながら、自分に最適なものを見つけてください。可能性の芽を膨らませ、独自の表現を可能にするため、制作の方向性や進度は個別に対応することを基本とします。みなさんに伴走しながら、その道案内ができれば、と考えています。

一年を通じて前半は、緩やかなカリキュラムに沿ったもの。後半は、各自のテーマで制作していきます。最後には、展覧会を開催し、その成果を発表します。みんなで展覧会を見に行ったり、また、個展やグループ展の開催、レジデンスへの参加などといった校外での活動も応援します。

興味はあったけれど、作品なんて今まで作ったことがなかったという人から、すでに作品を発表している人まで、美術というものに少しでも興味があれば、どなたでも大歓迎です。

齋藤美奈子

定員：10名

授業日：毎週火曜日 13:00～17:00

教程維持費：11,000円（年額）

開催教室：本校

授業内容

■ 作品制作

- 1：受講生からヒアリング
……作りたい作品の傾向などを確認していく
- 2：講師と受講生で話し合い課題を煮詰める
- 3：課題による作品制作
例・風を描く、表現する
・目で見ず触って物を描いてみる
・身近な素材を使った表現
・写真を使った表現
- 4：各自の課題で作品制作
- 5：修了展開催

■ ミニ講義

- 1：リカちゃんハウスとドールハウス
……国や地域による空間認識の違い
- 2：書道は芸術か？
……アートの定義とは何か
- 3：写真
……その出現でアートはどう変わったか
- 4：現代美術の流れ
……1950年代以降の変遷と作品紹介



講座WEBページ
インタビューやレポートなどを
掲載しています

芸術漂流教室

倉重迅＋田中偉一郎＋岡田裕子

定員：9名

授業日：毎週月曜日 19:00～22:00

教程維持費：11,000円（年額）

開催教室：本校

「芸術漂流教室」は、倉重迅、田中偉一郎、岡田裕子を中心に、ゲスト講師も招きながら展開していきます。3人の講師によるこの教室は、一粒で3度おいしく、3倍以上の楽しみ方がある講座です。各講師の講義・演習のほか、ギャラリースペースでのグループ展や、2,3泊程度の夏期合宿なども行う予定です。現代美術の領域で活動しながら他ジャンルにも軸足を持つ、経験値の高い講師陣とともに「楽しく」「真面目に」漂流しましょう。

講師＝倉重迅

アートを通じて人生のクオリティを高めたいと考えております。アートは決して美大卒やフルタイムアーティストだけのものではありません。思考する、議論する、制作する、発表するなど様々なプロセスを通して自分自身の表現力や理解力などブラッシュアップし、各々の人生にフィードバックすることができたらと思います。映像関連作品はもとより、インスタレーションや立体、絵画などジャンルを問わず扱っていきます。どのようなジャンルでも思考プロセスや言語はほとんど変わらないので極力色々なところに手を伸ばしていきたいと考えています。授業内容の一例としては各受講生たちが持ちよる作品、コンセプト、アイデアなどをベースにディスカッション、ディベートをラウンドテーブルで3時間ガチンコで行っていくものなどがあります。日本ではあまり馴染みのないスタイルですが、弱点や強みが浮き上がり、また特定個人の思想や嗜好に引っ張られたりしにくいので、ことアートに関しては非常に効果的です。

一年間を通してお互い成長していけたらと思います。

講師＝田中偉一郎

大きなテーマを「無意味塾」として、無意味を入り口とした作品づくり／演習／現代美術講義／デザイン論／展覧会／企画／釣り／大喜利大会／映画鑑賞／公募展応募／カラオケ／レイアウト／交換日記／タイムトライアル／クソゲー／休憩などをします。パウハウスとバカ田大学のちょうど真ん中にあるイメージで、果てしなく意味の無い時間を過ごす、芸術の意義が見えてくるはず。世界でもここにしかない芸術講座で、美術家になりたい方も、デザイナーになりたい方も、何にもなりたくない方も、れっきとした何かになりましょう。（現に受講生から、作家になった人や、公募展で入選や賞を獲得した人などを輩出しています。講師の田中も、教えるというより、無意味を足がかりに一緒に成長する、芸術をつかむ場と考えています。）

講師＝岡田裕子

岡田自身、表現形態が多岐に渡り、分野横断的な試みを行いながら芸術活動を続けてきました。ですので、受講生ひとりひとりの興味関心や適性を探り、絵画、立体、インスタレーション、パフォーマンス、メディアアートやそれ以外など、多様な可能性を提案しながら、実践的な制作のアドバイスができると思います。ワークショップ形式の授業や観賞授業なども行います。

受講生ひとりひとりが、これからどう生きてゆこう、これからどう変化しよう、などを抱えています。そういった想いに対して、美学校の少人数制という利点を活かし、それぞれに丁寧に対話してゆきたいです。ここでは「こうあるべき」というような指導はないと考えていて、それは掴みどころなく感じるかもしれませんが、ここから良い変化を遂げた受講生がたくさんいるなという実感があります。あと、なぜだか、卒業しても年度跨いで仲の良いコミュニティが生まれてますね。漂流船から上陸した仲間のような感じかもしれません。

倉重迅 アーティスト

1975年神奈川県生まれ。フランス国立高等芸術大学マルセイユ（ボ・ザール）DNSEP課程修了。トリノ・トリエンナーレ、シドニー・ビエンナーレ、「笑い展」（森美術館）など、国内外の展覧会に参加。

また複数のa.k.a.にて、CMやPV、TV番組などのディレクションなどにも携わっている。

面白そうなことに積極的に関わっていった結果、運営や経営、関連する企業、NPOなどは多岐にわたる。近年は飲食店や食品輸入などにも鋭意参画中。

田中偉一郎 現代美術家

このせかいのほとんどに意味はない。その“ほとんど”を扱っています。1974年生まれ。2000年より《ハト命名》《板Phone》《マネースケッチ》といった無意味に立脚した作品を展開。写真作品《ストリート・デストロイヤー（2004〜）》は、2018～22年にEテレ番組内でコーナーになり、制作・出演。また、広告のアートディレクターとして、数多くのTVCMからパッケージデザインまで幅広く企画制作。絵、写真、音楽、動画、パフォーマンス、書籍、広告など、媒体を問わず無意味な作品を乱れ撃ちしている。

岡田裕子 現代美術家

未来予想的かつ独創性の高い作品をチャレンジな手法で展開する。国内外の美術館展、アートイベント、レジデンス事業に多数参加。主な作品に、再生医療をテーマとした《エンゲージド・ボディ》、男性の妊娠を描いた《俺の産んだ子》、自分の葬送を仮想体験するXR作品《Celebrate for ME》など。個人活動のほかに他者と協働するアートプロジェクトも立ち上げる。＜オルタナティブ人形劇団「劇団☆死期」＞主宰。家族（会田誠、寅次郎、岡田）のアートユニット＜会田家＞、Art×Fashion×Medicalの試み＜W HIROKO PROJECT＞。1970年生まれ。



講座WEBページ
インタビューやレポートなどを
掲載しています

現代アートの勝手口

齋藤恵汰＋中島晴矢

定員：10名

授業日：毎週金曜日 19:00～22:00

教程維持費：11,000円（年額）

開催教室：本校

今や現代アートは細分化し、あらゆるジャンルを包摂する取り組みの総称となっています。1990年のバブル崩壊から35年の間に起こった日本の文化的な無根拠を下敷きに、私たちは幅広いプロジェクトを勝手に展開してきました。

過去35年の間には色々なことがありました。95年の阪神淡路大震災、01年のアメリカ同時多発テロ、04年のSNS元年、08年のリーマンショック、11年の東日本大震災、15年の安保法案、2020年のパンデミック、2021年の東京五輪、そして2022年のウクライナ戦争と2023年のガザ侵攻。

「現代アートの勝手口」は、この20世紀を総崩れにした35年の後に、改めて勝手に現代アートをやろうという集まりです。私たちは広く深く様々な形式を取り扱います。知的好奇心の赴くままに一緒に遊べる人と、これからの遊び方を再発見したいのです。

講師の齋藤恵汰と中島晴矢は、齋藤がコンセプチュアルアート（設立・出版・発表等）、中島がミクストメディア（映像・写真・執筆等）を本分としています。互いの探究してきた多角的な事柄は、常に根拠なき文化運動の中から興味の赴くものを選び、勝手に関係することを目指してきました。

その多様な勝手こそ、みなさんと共有したいものに他なりません。むしろ「勝手口」とは台所の出入り口を指します。この講座を通し、三河屋のようにひとの勝手口から勝手に出入りして、その勝手に盗み合えるひとたちと出会えれば幸いです。

【カリキュラム（内容と流れ）】

当講座は基本的に「理論と実践」がセットになっています。各テーマごとに講義やテキスト読解を通じて「理論」を学び、ワークショップや作品制作により「実践」を行なってもらいます。

1学期は座学に徹し、芸術活動を展開していく際の基礎体力となる現代アートや各種カルチャーの知識を、テキストの精読を通じて学びます。2学期はアーティストや批評家、キュレーター、コレクティヴ、ダンサーなど、多彩なゲストを招いてより横断的な知見を広げながら作品制作を実行し、クラス全体で議論を交わす中で作品のコンセプトや精度を高めていきます。3学期は各受講生のパーソナリティに合わせた制作の補助をベースに、年度末に行われる修了展に向けて作品制作と展覧会準備を進めていきます。

これらの成果を受講生が自主的に企画する修了展で発表します。

授業内容の一例

- ・『現代美術史——欧米、日本、トランスナショナル』（山本浩貴）精読
- ・『ニッポンの思想 増補新版』（佐々木敦）精読
- ・「超芸術トマソンと路上観察学」講義／実践
- ・「根拠地と風景論」講義／実践
- ・「パフォーマンス・ビデオ・アート」講義／実践
- ・「キュレーションの歴史と未来」講義／実践
- ・「マイナーなものをどのように紹介するか」講義／実践
- ・「えらぶ、ならべる、くぐる」講義／実践

過去のゲスト講師

涌井智仁（美術家／音楽家）、能勢伊勢雄（美学校 岡山校 校長）、松田将英（アーティスト）、ぼく脳（芸人／パフォーマー／アーティスト）、SCAN THE WORLD（プロジェクト）、奥脇嵩大（青森県立美術館学芸員）、大山エンリコイサム（美術家）、大岩雄典（アーティスト）、岡啓輔（建築家）、humunus（演劇ユニット）、野ざらし（プロジェクトチーム）、アグネス吉井（ダンスユニット）、遠藤麻衣（アーティスト）、鈴木操（彫刻家）、筒井宏樹（近現代美術史）、佐々木友輔（映像作家）、赤井あずみ（鳥取県立博物館主任学芸員）、大和田俊（サウンドアーティスト）、赤井浩太（批評家）、山内祥太（アーティスト）

齋藤恵汰

1987年東京生まれ。2008年、ランドアートプロジェクト「流家」設立。2016年、1990年前後に生まれた批評家・研究者が手売りで販売する批評誌「アーギュメント #1～#3」（2016-2018）創刊。2020年、金沢に移住しアーティストインレジデンス「CORN」（2021-）設立。渋谷クリエイション株式会社（シブハウス）代表取締役。アーツカウンシル金沢ディレクター（2022-）。展覧会の企画販売を行う株式会社 BUCCHIGIRI Production 取締役・キュレーター。

中島晴矢

1989年神奈川県生まれ。現代美術、文筆、ラップなど、インディペンデントとして多様な場やヒトと関わりながら領域横断的な活動を展開。主な個展に「東京を鼻から吸って踊れ」（gallery α M, 2019-2020）、キュレーションに「SURVIBIA!!」（NEWTOWN, 2018）、グループ展に「TOKYO2021」（TODA BUILDING, 2019）、アルバムに「From Insect Cage」（Stag Beat, 2016）、著書に『オイル・オン・タウンスケープ』（論創社, 2022）など。



講座WEBページ
インタビューやレポートなどを
掲載しています

アンビカミング： シャドーフェミニズムの芸術実践

遠藤麻衣＋ゲスト

定員：10名
授業日：隔週火曜日 19:00～22:00
教程維持費：11,000円（年額）
開催教室：本校、オンライン
（本校とオンラインで交互に開催します。）

この講座は、オープン講座として始めた「シャドーフェミニズムの芸術実践」を通年講座として展開したものです。

私は、これまでフェミニズムに関心を持って芸術的な実践をおこなってきました。なかでも、西洋中心主義的なネオリベリズムがとりこぼしてきた領域にあるフェミニズムに関心を持ってきました。そのフェミニズムとは、クィア理論家のジャック・ハルバースタムが指摘するような「ネガティブ」で「パッシヴ」な「シャドーフェミニズム」です。とはいえ、この系譜のフェミニズムと芸術実践の関連を学ぶ場が少ないとも感じてきました。

そこで、そういった場を作ってみようと思いついたのが、この講座の始まりです。

2010年代以降は、フェミニズムの第四の波として、それまでのフェミニズムに対するイメージの更新や読み直しがさかんに行われています。差別的な制度への関心が集まり、それが実際に是正されるといった変化を起こしています。芸術祭や展覧会の主題として目にすることも増えました。現在のフェミニズムは、人々に好まれ流行するという側面ももっています。このような波のなかにも関わらず、この講座ではその波に乗るというよりは、むしろ波に溺れてみたり、波乱をもたらしたりするものとしてフェミニスト的な思考と実践を行っていきます。

授業構成は、理論編、実践編を交互に行い、理論編はオンライン開催、実践編は対面開催を予定しています。また、国内外のゲストを招いて、ワークショップやトークイベントも行い、創造性や知的な刺激が広がる場づくりを受講生とともに行っていきたいと考えています。

この講座でいう芸術実践は、発表形態等にこだわりはなく多様なあり方を想定しています。クィア・フェミニズム、ソーシヤルプラクティスとしての芸術に関心を寄せるさまざまな方の受講をお待ちしています。

遠藤麻衣

授業内容の一例

■ 実践

関心や相談事についておしゃべりする。

受講者自身が企画したゲスト・レクチャー／ワークショップを開催する。

過去のレクチャー／ワークショップの例

- ・漫画作話・作画理論についての話とワークショップ
- ・推手をみんなでやってみる
- ・木版画 ZINE『刺紙（Prickly Paper）』を中心に中国での芸術実践紹介
- ・舞踏の系譜についての話と即興的な動きをするワークショップ
- ・「GWO BEAN Collective」の活動紹介と香港の農業事情
- ・「Good Night Limpet」のラジオ収録

■ 理論

クィア・フェミニズムの理論を芸術実践との関わりをなかで整理し、咀嚼する。

過去のレクチャー例

- ・フェミニズム運動における「経験」って？
- ・クィアネス：「時間の速度」と「不安定性」
- ・ドラァグ：「演技」と「セルフケア」
- ・異種共同：「ネットワーク」と「物語」
- ・クィア・フェミニスト的な組織化とは
- ・アンチ・ソーシヤルな欲望、愚かで非対称な関係
- ・物語やイメージの転用：神話、歴史、少女マンガ
- ・動物／護身／回復：逃げる場所、戦う準備

参考文献の共有

遠藤麻衣

1984年兵庫県生まれ。映像、写真、漫画、演劇などのメディアを横断し、おしゃべりや演技など自らの身体を通じたクィアフェミニスト的な芸術を実践している。近年のグループ展に「ここは未来のアーティストたちが眠る部屋となりえてきたか？」（国立西洋美術館、2024年）、「フェミニズムズ／FEMINISMS」（金沢21世紀美術館、2021年）など。演劇やパフォーマンス出演に第21回AAF戯曲賞受賞記念公演「鮭なら死んでるひよこたち」（愛知県芸術劇場ほか、2023）や「Stillive」（ゲーテ・インスティテュート東京ほか、2019-）。2023年に「Scraps of Defending Reanimated Marilyn」（oarpress）刊行。2018年に丸山美佳と「Multiple Spirits（マルスピ）」を創刊。2021年東京藝術大学美術研究科博士後期課程美術専攻修了。2022年文化庁新進芸術家海外研修制度でニューヨーク滞在。

過去のゲスト

陳逸飛（アーティスト・木版画 ZINE『刺紙（Prickly Paper）』メンバー）

GWO BEAN Collective 果邊（半開放工作室）
櫻井郁也（舞踊家）

渡辺泰子（アーティスト・アーティストコレクティブ「Sabbatical Company」メンバー）
丸山美佳（批評家・キュレーター）

永田康佑（アーティスト）

河野真太郎（英文学者）



講座WEBページ
インタビューやレポートなどを
掲載しています

サウンドアート・入門と実践 ～電子音響音楽、サウンドコラージュ、 フィールドレコーディング～

渡辺愛

電子音響音楽とは、電気信号の合成によって作られる電子音楽と、録音技術を用いて作られる音楽とを統合した言葉です。

この講座では、音や音楽を考えるうえでの基礎的な学びとして、広く現代音楽や電子音についての知見を深め、音自体の構造を理解し、電子音響による音づくりを通じて「音とは何か」を考察します。

突然ですが、いまあなたの背後でパリーン！と音がしたとしましょう。振り返る前にあなたが思うことはきっと「あれ？ガラスが割れた？」「誰かがコップを落とした？」。つまり、それが“何”の音なのか、その音は何が起こったことを“指し示す”音なのか、ではないでしょうか。

このように、わたしたちは普段音に対して“何が”“どうした”といった“意味”や“原因”にフォーカスする聴き方をしています。わたしたちはいつも“何の音が”に囚われているのです。ギターの音、ドの音、電車の音、「ビガッコウ」という発音…これらは音を記号化した捉え方です。ところが、こうした音の意味性や記号性を極力気にしないで、発せられた音の音響形態としての特徴（音の高さや強さ、長さや音色など）に集中したほうが面白い音楽が作れると考えた人がいました。ピエール・シェフェールという人です。彼は1948年にミュージック・コンクレートというジャンルを創始し、録音した音を音響オブジェと呼んで、もとの文脈から引き離すことを試みました。

…というわけで、この講座では実際に音作品を作っていただくこともございますが、その際に「何の音で作りましょう」ということは申し上げません。むしろその「名前のない音」について観察し、触れ、自分の力で組み立てられるようなエクササイズを、一緒にやってみようと思います。

理論と実践を組み合わせた授業構成となります。専門的な背景を学習したうえで、課題作品の制作やその講評を通じたディスカッションを行い、音に対する見識を拡げていきましょう。

授業内容の一例

■ 理論

- ・20世紀の電子テクノロジーの変化を電子音響音楽の視点から概観する
 - ・ミュージック・コンクレートの作品分析を通じて音の聴きかた、音楽の捉えかたを問い直す
 - ・さまざまな作品に触れ、電子音響に対する知見を広げる
 - ・電子音響制作の基礎
- など

■ 実践音響

- ・オブジェを録ろう
 - ・フィールドレコーディングをしてみよう
 - ・サウンドアートの実演
 - ・シンセサイザーに触れる
 - ・作品を作ろう
- など

■ 対象者

- ・現代アート制作を行っていて、音を使った表現に興味ある人
 - ・音楽制作を行っていて、音楽だけでなくアートやインスタレーションなどに興味ある人
- など

定員：12名

授業日：毎月1回日曜 14:00～16:30
(年間11回／5/11、6/15、7/13、8/3、
9/14、10/12、11/9、12/14、1/11、
2/8、3/8)

教程維持費：11,000円(年額)

開催形式：オンライン／対面(本校)

授業アーカイブによる復習と補完

授業は毎回アーカイブし、録画データをVimeoにてストリーミング／受講生限定公開にて提供いたします。

渡辺愛

作曲家。フィールド・レコーディングの素材を含む電子音響音楽を中心に活動する。東京音楽大学大学院作曲専攻修了、パリ国立地方音楽院修了。東京藝術大学大学院博士後期課程修了。リュック・フェラーリ研究で博士号取得(学術)。JAPAN2011受賞(イタリア)、国営ラジオでの放送(フランス)、ICMC2018(韓国)、RADIO SAKAMOTO(presented by 坂本龍一)での放送等、国内外で評価を得る。音響装置アコースモニウムの演奏も行う。現在、東京藝術大学、昭和音楽大学、玉川大学、武蔵野美術大学、各非常勤講師。日本電子音楽協会理事。先端芸術音楽創作学会会員。JWCM女性作曲家会議メンバー。



講座WEBページ

立体・空間制作ゼミ

時空を超えて

～彫刻からインスタレーション

利部志穂

定員：8名
授業日：毎週火曜日 19:00～22:00
教程維持費：11,000円（年額）
開催教室：本校

インスタレーションってなんですか？

この講座では立体や、空間的な制作表現について学びます。そういった表現は美術の世界では「インスタレーション」と呼ばれています。ですが、建築と彫刻、インテリア、食べ物、自然、既製品の違いはどこにありますか？

海辺の開かれた風景と、街中の夜景ではどんな音が聞こえますか？
どんな匂いですか？その視界から隠れた場所には何がありますか？

モノを作る時、置く時、選ぶ時。素材、質感、場所の特性、大きさ、重さ。様々な要素が重なり合って出来上がります。また、鑑賞するときにはどうでしょうか？家具や彫刻、神社仏閣、公共施設、山や海、交通手段は車で歩きで自転車？季節は、時間は？同じモノや場所、空間にいたとしても、個々の体験や経験、時代、文化的背景や体格、関心事でも随分違って見えたり、感じられているのではないのでしょうか。

このクラスでは、作品制作、作品鑑賞体験、美術を考えることは勿論、それぞれの特性や関心がどのようなところにある、どのように展開していくのか。どのような手段で制作や思考が進められるのかを、実践的に取り組んでいきます。

インスタレーション、彫刻。と言ってもそれぞれの定義や考えによって広い範囲にわたります。時間や空間が関わるもの、人間の身体や事物を通して考え、制作していきます。立体物、絵、映像、言葉、音、パフォーマンスなど広義に渡り参加者それぞれの世界の在り方を探っていきます。制作、展示、作品鑑賞、フィールドワークなどを通して、様々なメディアや方法に実験的に取り組み、一年を通して一緒に考え、新しい時空を創作し、体験していきましょう。

利部志穂

美術家、彫刻家、サンライズサーファー
2004年文化女子大学立体造形コース卒業
2007年多摩美術大学大学院美術研究科彫刻専攻修了。

2017年より2年間文化庁新進芸術家在外派遣にてイタリア、ミラノで活動。国内外の美術館やギャラリーなどで発表。

生活の中で不要となったものや、壊れて廃棄された拾得物、建築資材など様々な既製品を使用し組み替え彫刻作品を作る。サイトスペシフィックなインスタレーション、映像、写真、パフォーマンス、音、言葉、を用いて、モノと人との距離や時空に触覚的に関わっていく。日々の細やかな機微と大規模なスケール感とが同率、様々な言語感覚が物理的、詩的に混在、展開される作品世界。近年は世界の地形から見る神話、民話、口伝伝承、旅や食、生活活動を通して世界の共通言語を探求、制作、発表。
<http://www.kagabu.com/>



講座WEBページ

[募集なし] (次回募集は未定です)

定員：-
授業日：-
教程維持費：-
開催教室：-

未来美術専門学校

遠藤一郎

ガチであそびつづけていく

「実力、才能、経験、理屈、自信、不安、葛藤、調和、むし」
「リスク、コスト、バランス、一切むし」
「ゆとらない、かまわない、いかされない、超元気」
「ピンピン、ワクワク、ゴリゴリ、イケイケ、クラクラ、ギョギョギョ、アゲアゲ、200%」

好きにやる
なにかのスタイルはいらない
おだやかにゆとる必要なし
それぞれの形でフルスペック
ありえるかぎりの今
考えず気にとめず
ナリフリかまわず
やる
ただ好きに
やる
超調和が適当にハマっていく
間違いはない
夢がはじまる

何のためでもない
誰のためでもない
社会のためでもない
コンセプトもステータスもない
なんでもない
だれでもない
どうでもいい
ちょうどいい
すでに最高
その連続

現実はおわる
夢がはじまる

宇宙の最高の最短の地上のツアー

やっちゃいましょう

未来へ

遠藤一郎

1979年、静岡県生まれ。未来へ号ドライバー、カットパシ匠、DJじゃみへんさん、未来龍大空凐、マグマ農場、for you、未来美、ドラゴンリリース、等を進行中。

車体に大きく「未来へ」と描かれたバス『未来へ号』で車上生活をしながら全国各地をはしり、アートイベントで展示やパフォーマンスを行う。主な参加イベントに「別府現代芸術フェスティバル混浴温泉世界」わくわく混浴アパートメント、「TWIST and SHOUT Contemporary Art from Japan」BACC (バンコク)、「愛と平和と未来のために」(水戸芸術館)「六本木アートナイト」(六本木ヒルズアリーナ) 他。2008～2017『美術手帖』(美術出版社)に連載。



講座WEBページ
インタビューやレポートなどを
掲載しています

実作講座 「演劇 似て非なるもの」 生西康典

始まりは何かをつくってみたいという静かな衝動です。

でも、それが何なのか、何をどうしたら良いのか分からない。

それを見つけるためには遠回りに思えても、手ぶらで集まって話すということから始めたいと思います。

創作に関することだけではなく、ささいなこと、雑多なこと。

ゆっくりと話を続けているあいだに、自分にも相手にもつくりたいものが少しずつ見えて来るはずです。

何かをつくるというのはゼロから始めるというわけではありません。

つくりたいものは必ずそのひとの中に既にあるからです。

でも自分自身のことはなかなか見えません。

対話を通じて、「やってみたいこと」「やりたいこと」を一緒になって探り当てていきます。

やってみなければ見えてこないことも多いです。

やりたいことが見つかったら、どうやって実現するか稽古を通じて試行錯誤を続けましょう。

完璧なものなど出来なくても構いません。

とにかく最後に修了公演というかたちで他者に見せてみます。

そのことで自分の中にしかなかったものが、ひとつの作品として他者の目に触れることになります。

自分では見つけられない大切なものを他者が見つけてくれることがあります。

見つければそれを抱えて続けていくだけです。

続ければ続けるだけ、自分にとっての問題が見えてきます。

その問いを実感を伴って解いていくことが出来るのは自分だけです。

あなたが話しを始めるのを待ってくれる人がいます。

話を聞いてくれる人がいます。

話し始めるのを一番待っているのは自分自身だと思います。

まずは人と人が出会うところから始めたいと思います。

定員：10名

授業日：月1回日曜日 12:00～17:00

(年間11回+修了公演2日 5/11、6/1、7/6、8/3、9/7、10/5、11/2、11/30、1/11、2/1、3/1、4/4、4/5)

教程維持費：20,900円(年額)

※教程維持費は制作実費を含みます。

開催教室：本校

生西康典

1968年生まれ。舞台やインスタレーション、映像作品の演出などを手がける。作品がどのようなカタチのものであっても基本にあるのは人とどのように協働していくか。自分自身を形作っていると信じられている殻がとけた時にはじめて現れる「その人」が見たい。その時「人」はありとあらゆるものと触れあっているだろう。近作は『ロングショット』(2022、スタジオ空洞)、『抱えきれないたくさんの四季のために』(2022、SCOOL)、『棒打ち 私だけが長生きするように』(2021、Tokyo Real Underground)。主なインスタレーション作品に『おかえりなさい、うた Dusty Voices, Sound of Stars』(2010、東京都写真美術館)。書籍『芸術の授業 BEHIND CREATIVITY』(中村寛編、共著、弘文堂)。



講座WEBページ
インタビューやレポートなどを
掲載しています

劇のやめ方 ～集団から迷子になっている人を 歓迎する演劇講座～

篠田千明

劇は始めるよりやめるほうが難しい。人前にでたくないというひとは、人前でなにかをやるのが嫌なのではなく、人前でなにかをやめるのが嫌なのでは、とすら思う。社会で起きている劇をやめるのはさらにとても難しい。と言うより、劇を認知することと社会を認知することはほとんど等しい。

つまり、ある劇を共有できることで生まれる社会の中に私たちは生きている。その社会全体を否定するわけではなくて、やめるべき劇があるのではないかと。難しいけど、劇のやめ方を考えることはいま必要とされているように思う。

『劇をやめる』そのテキスト自体が、即興的に無数の劇を生み出す。

私は、作家としては、常に即興性を生み出す劇が生き延びるべきだと考える。即興性はより多くの声を吸い込み、より多くの身体を同時に成立させるからだ。ありとあらゆるありえない組み合わせを可能にする、『劇をやめる』という演劇を作る。

この講座では、年間の最後に修了展をやります。上演でも展示でもパフォーマンス作品でもかまいません。個々人での発表か、全員での発表になるか、それは講座の進行で変わってきます。オンラインでの実験も含んでいます。

演劇には興味があるけど集団はつらい、とか、近くで見るのがこわい、とか、そういう人も歓迎です。対象となる年齢やパフォーマンス経験は問いません。誰かの誕生日を祝った経験や、来週の予定を立てる経験があるなら、それは劇を立ち上げた経験がある、ということです。

個人の生活に密着した劇は力強さがあります。

どれだけ多くのタイムラインや場所を吸収できるか、その力強さをぜひ、この講座で私と共有させてください。

定員：10名

授業日：隔週火曜日 18:30～22:00

教程維持費：30,800円（年額）

※教程維持費は制作実費を含みます。

開催教室：本校

篠田千明

2004年に多摩美術大学の同級生と快快を立ち上げ、2012年に脱退するまで、中心メンバーとして主に演出、脚本、企画を手がける。

以後、バンコクを拠点としソロ活動を続ける。「四つの機劇」「非劇」と、劇の成り立ちそのものを問う作品や、チリの作家の戯曲を元にした人間を見る動物園「ZOO」、その場にきた人が歩くことで革命をシュミレーションする「道をわたる」などを製作している。

2018年 Bangkok Biennial で「超常現象館」を主催。2019年台北で ADAM artist lab、マニラ WSK フェスティバル Music Hacker's lab 参加。



講座WEBページ
インタビューやレポートなどを
掲載しています

特殊漫画家 - 前衛の道

～商業漫画と特殊漫画 - そのあいだ～

根本敬

定員：10名
授業日：隔週火曜日 19:00～22:00
教程維持費：11,000円（年額）
開催教室：本校

私は81年以来非商業的なへたウマブームの追い風もあり、当時としては前衛的な「特殊漫画家」として（この呼称は自称です）世に出て幸いにも下積み期間もなくこれを職業として成り立たせ、やがて複数の扶養家族を含め今日まで飢えることもバイト生活をすることもなくこの道一筋で生きて参りました。これは奇跡的なことながら、我が身を振り返ると、ごく自然な流れに乗り続けることが出来た結果とも言えます。とはいえ、私なりに趣味を職業とし生きながらえるにあたり、私なりの無意識の計算、体よくいえば「セルフプロデュース」能力はあったかと振り返ります。それが意識の深層に秘訣としてあるのは確かな様です。

その深層を無意識の淵から掘り、明るみにし、手に取り今日まで「何故食べてこられたか」その意識無意識のあいだを受講生の皆さんに語り、時に問いかけ、そしてこの講座は実際どうなるかはさておき、あくまでも漫画講座なので、しばしば即興的に皆さんとラフに漫画を描きながら探っても行きたいと思えます。

高収入を得るには特殊漫画家は商業漫画家（漫画そのもので成功する。因みに特殊漫画には漫画そのものに商業的な成功はありません）と比べると非常に不利です。

しかし、目先、矛先をかえれば特殊漫画家は商業漫画家よりも生きながらえるに有利な職業でもあります。

とまれ。

これは、言うなれば「漫画講座」の体裁をとりながら、本来の属する表現ジャンルとは違う表現スタイルを特殊漫画の作法？から学びとり、それを自らの本来の表現に生かす。そこから「本業」としてバイトせずに食べていく秘訣を受講生の皆さんと探る講座にしていく所存です。

一般的ではない他人（ヒト）と「どうも周りに違和感を覚える」というようなあらゆる非漫画の異なる表現ジャンルの方の受講もおおいに歓迎いたします。また、しっかりと美術教育を受け絵が上手くなりすぎ、下手くそになる必要のある方にもお薦めの講座です。

※当講座では性的描写を含むコンテンツの視聴や閲覧があります。予めご了承ください。

授業内容

- ・特殊漫画家とは？ - 現在の商業漫画と特殊漫画のあいだ
- ・しのぎこそ特殊漫画の醍醐味であり、可能性を拓く
- ・無意識を鍛えろ
- ・へたウマほど難しい『絵』はない
- ・漫画表現の越境
- ・事実より真理。そして真理はしばしば下らない事実の中に在る
- ・括りを与えたそばからこぼれ落ちるもの
- ・意味はないけど理由はある
- ・無秩序 - 混沌の翻訳。時に元ネタとしてのカオス
- ・絶対に成功出来ない者たちの棒振人生の数々等々

根本敬

1958年東京生まれ。81年月刊漫画『ガロ』9月号で漫画家デビュー。以後「平凡パンチ」に「生きる」などを連載。漫画の代表作は「怪人無礼講ララバイ」収録の「タケオの世界」とされる。「因果鉄道の旅」「人生解毒波止場」「ディープコリア（同盟との共著）」など文字の本は漫画本より読者が多い。2009年「真理先生」で第11回みうらじゅん賞受賞。幻の名盤解放同盟（昭和歌謡の淵を掬うコンピ「解放歌集」を編纂）の一員であり、東京キララ社の特殊顧問であり、マルセイユを拠点とするアート運動体ル・デルニエクリの一員でもある。



講座WEBページ
インタビューやレポートなどを
掲載しています

意志を強くする時 ～漫画の作話精神論～

意志強ナツ子

定員：6名
授業日：毎月第三水曜日
(4月は第三日曜/年間12回)
12:00～16:00
教程維持費：11,000円(年額)
開催教室：本校

漫画づくりにおいて、私は作話の工程をもっとも重視しています。売れている教則本を読めば「面白い」物語の作り方は大体わかるようになると思います。じゃあ「白目をむくほど面白い」物語はどうやったら作れるのか？私は、その答えを人生を通してず～っと探し続けていくつもりですがおそらくそれは、精神論がないと辿り着けない場所にあるんじゃないかと思っています。

というわけで、この講座は、作話理論と同じくらい精神論を大切にしていける漫画の作話講座です。

私が描いた『アマゾネス・キス』という作品の中で主人公の占い師・岡本はづきは、占いをする時の感覚をこんなふうに表現します。

「目や脳で考えない。ここで考える。(頭上を指差す)」

または、もっと的確な表現もあるかもしれません。

「アイデアの雲に手をつっこむ」

「潜在意識の沼の底に触れる」

とか。私の作話精神論は、なんとなくそういうイメージです。

簡単に到達できる境地ではありません。しかしトレーニングを重ねることでその境地への回路を作っていけると思います。到達の精度をより高め、早め、生産性を上げていく。そういうトレーニングをしていきたいです。

漫画を描いたことがない人でも、絵が苦手な人でも大丈夫です。だけど、小説やドラマの脚本づくりに活かせるか？という、わかりません。あくまで漫画づくりのための作話講座です。

授業内容

この講座には『30分作話』と『1年作話』という2種類のトレーニングがあります。

『30分作話』

30分でショートストーリーのプロットを捻出すトレーニングです。講座時間内にみんなで行います。2セット行う場合もあります。素早く深く集中して話を作るトレーニングなので、頭が疲れる作業ですが、この課題で瞬発力を鍛えていきましょう。

『1年作話』

1年間じっくり時間をかけてひとつの物語を作っていくトレーニングです。毎月宿題として制作してもらいます。メールでプロットを提出していただき、講座内で講評します。それぞれの都合に合わせて、無理のないページ数で作っていきます。この課題で、持久力を鍛えていきましょう。プロットがまとまったら、ネームにしていきます。

12月は、ゲストに漫画編集者をお招きし、ネーム講評と講義をしてもらう予定です。

最終回の4月には、美学校にて修了展代わりの即売会を行います。『1年作話』の完成形ネームを、合同誌としてまとめ発行するのがこの講座の目標です。

私もみなさんと一緒に『30分作話』と『1年作話』に取り組んでいきます。どういうプロセスを経て完成に至るかをお見せすることで、みなさんのクリエイティブのお手伝いのできればと思います。作話は頭が疲れるし、なかなかOKも出ないし、スランプもある。光が見えないしんどい作業だと思いますが、

じゃあいつやるの？

今でしょ 今がその時でしょ

意志を強くする時でしょ～！！

という気持ちで、一緒に頑張っていきましょう。

意志強ナツ子

1985年山形生まれ。日本大学芸術学部美術学科彫刻コース中退後、Academy of Fine Arts, Prague コンセプチュアルメディア学科(Prof.Milos Sejn)入学。同アカデミー、インターメディア学科(Prof.Tomas Vanek)修士課程卒業。2010年第9回漫画アクション選外奨励賞受賞。2014年リイド社トーチwebにて『女神』が掲載され商業デビュー。代表作に『魔術師A』『アマゾネス・キス』『黒真珠そだち』『るなし』など。

予定ゲスト講師

中川敦

1979年北海道生まれ。東京学芸大学教育学部卒業後、立風書房入社(のちに学研と経営統合)。雑誌編集者として勤務したのち、2011年10月にリイド社入社。2014年に会社の有志とともに「トーチweb」創刊。現編集長。担当作家に、赤瀬由里子、意志強ナツ子、ウルバノヴィチ香苗、大山海、川勝徳重、斎藤潤一郎、高浜寛、ドリヤス工場、中川学、バロン吉元、不吉靈二、堀北カモメ、まどめクレテック、道草晴子、みなもと太郎、山田参助など。



講座WEBページ
インタビューやレポートなどを
掲載しています

建築大爆発

岡啓輔＋秋山佑太

定員：8名

授業日：5～10月／全20回

毎週土曜日 13:00～16:00

教程維持費：11,000円（年額）

開催教室：本校

本講座は、アーティストであり建築家でありながら現場で大工として多くの経験をしてきた岡啓輔と秋山佑太によるハードコアな建築とアートの講座です。受講生は建築学科の大学生や建築の職人だけでなく、建築の専門で無い人も沢山います。開講5年目を迎える今年は、5～10月の半年間、全20回で開催します。

まず、全員共通の課題として暮らしに関わるモノをつくり、その過程で簡単な木工技術やコンクリート打設の技術を学びます。また、夏ごろから修了展に向けた個人制作に取り組み、10月に修了展を開催します。講師それぞれの活動をもとに、蟻鱒鳶ル建築（セルフビルド）、作品制作や美術展のキュレーションについての講義も行います。

文・岡啓輔

「つくる必要が無かったら潔く何もつくらない」のか「必要無くてもつくりたいものをつくる」のか、自分はどっちだろう？高専に入学し建築を学びはじめた15才の子供の問いです。卒業しても建設現場で働きながら、自転車で旅しながら、踊りながら、岡画郎をやりながらその事を問い続けました。だけど歳をとるにつれだんだんとつくる事が怖くなり、言い訳のような中途半端なものづくりを思考するようになっていました。そんな情けない自分が見えた時これじゃダメだとやっとの思いで奮起、蟻鱒鳶ルを着工。以来19年つくり続け今はハッキリと言えます。つくりたいものをつくる素晴らしさを！三田聖坂途中蟻鱒鳶ル力強く立ち上がりました！！

文・秋山佑太

建築は専門家のものではありません。全ての人類にとって、自分事であるジャンルです。

人生で小屋のひとつくらい建ててみたくないですか。自分で小屋を建てられる人間が増えたら、世界はもっと魅力的になるんじゃないかと僕は思っています。ラオスの山村では、みんな自分の家は自分たちで建てていました。10年前その村を訪れて、とても感動しました。

小さな小屋なら、プラモデル100個つくる間に、ひとつやふたつ建てられます。そんなもんです。建てるのは結構簡単です。みんなチャレンジの仕方が分からないだけです。「木を切りたい！鉄を曲げたい！石を彫りたい！コンクリートを打ちたい！そして小屋を建てたい！」そんな「手を動かしたい人」に集まってほしいです。

建築大爆発は、作りながら考えて、建築や芸術を理解していく講座です。

岡啓輔（建築家）

1965年九州柳川生まれ、一級建築士、高山建築学校管理、蟻鱒鳶ル建設。ウイークポイントは、心臓、色覚、読書。1995年から2003年まで「岡画郎」を運営。2005年、蟻鱒鳶ル（アリマストーンビル）着工。2018年、筑摩書房から「バベル！自力でビルを建てる男」を出版。2019年「のせでんアートライン2019」に参加。

秋山佑太（美術家・建築家）

1981年東京都生まれ。美術家・建築家。作業員や建造物を扱い、移動や集積といった方法で地霊を呼び起こす作品を制作。近年の主な企画展示に、2021年「スーパービジョン」（WHITEHOUSE・デカメロン・東京）、「破線と輪郭」展（ART DRUG CENTER・宮城）、2020年「芸術競技」展（FL田SH・東京）、2018年「モデルルーム」展（SNOW Contemporary・東京）「新しい民話のためのプリビジュアルイゼーション」（石巻のキワマリ荘ほか・宮城）、2017年「超循環」展（EUKARYOTE・東京）「グラウンドアンダー」展（SEZON ART GALLERY・東京）、2016年「バラックアウト」展（旧松田邸・東京）など。

過去のゲスト講師

- ・杉野龍起（インテリアデザイナー、デザインスタジオ「DODU」）
- ・井上岳（建築家・建築コレクティブ「GROUP」を共同主催）
- ・トモシ（アーティスト、インディペンデント都市ユーザー）
- ・南島興（横浜美術館学芸員）
- ・楊光耀（建築家）



講座WEBページ
インタビューやレポートなどを
掲載しています

アートに何ができるのか ～哲学的視点でつみなおす ART ゼミ～

荒谷大輔

定員：8名
授業日：隔週火曜日 18:30～21:00
教程維持費：11,000円（年額）
開催教室：本校

アートとは何でしょう。ハイカルチャーと呼ばれたものは「天才」という概念を弄んだ19世紀以降の短い歴史の果てに、今や絶滅危惧種として残っているにすぎません。その代替となったサブカルチャーも、資本主義社会の枠組みを前提にした価値の共有手段になっています。資本主義の狂騒の中で「神」として祀り上げられる芸術家のあり方も、しかし、資本主義の枠組み自体が軋む中で、すり減らされながら余命を数えている段階にあるように思われます。

この講座では、まず現在アートがおかれている社会的な状況を振り返って考えながら「アート」と呼ばれるものの本質を明らかにします。参加者が知らないうちに身につけている価値観の前提を問い直しつつ、それでも直観的にはおそらく各人が捉えているアートの本質を、ディスカッションの中で明らかにしていければと思います。

その上で「アートができること」を、私たちが日常を営む生活経済圏をまるごと問い直す中で、実践的に探求していきます。それが、この講座の最終的な目標です。「実践的」というのが非常に重要なところで、参加者（とその周辺の人々）によって実際に、新しい経済圏を作ることが目指されます。美学校という場所はそもそも、そのために作られたのではないかと僕は思っているのですが、校長には確認してません。

これまで積み重ねられてきた数々の試みの上にすでに成立している場のちからを借りながら、今まさにこの時代に実践的哲学者としてできることを探っていきたいと思います。

みなさまのご参加をお待ちしています。

授業内容

講義とディスカッションを繰り返す中で、講師を含めた参加者が無意識のうちに前提にしている価値観を浮き上がらせていき、それが凝り固まっている場合にはほぐしていきます。否定はしません。マッサージします。深呼吸する余裕ができれば、コリは自然にほぐれていくかと思えます。身体性大事。もしかしたら参加者の希望に応じて、実際に身体を動かすワークをするかもしれません。

そんな中で、現代の人々の考え方を無意識のうちに規定している歴史的な構造を明らかにし、現状の資本主義社会を越える新しい経済圏の可能性を提案します。講師が近年取り組んでいるブロックチェーン技術を用いた透明性の高い信頼経済圏の提案です。これだけだと何が何やら分からないとは思いますが、講義の中で小出しにしていければと思います。これはあくまで提案で、参加者の方々の身体を拘束するものにならないよう十分に気をつけるつもりです。が、少なくとも現行社会の「当たり前」を本質的なところから見直すきっかけにはなるかと思っています。

そうして最終的には、何らかのかたちで「実践」ができればと思います。成り行き次第のところもありますが、その「実践」はアート作品を作ることかもしれませんし、演劇やダンスを上演することになるかもしれません。あるいは、何らかの信頼経済圏を作ることになるかもしれません。

荒谷大輔

慶應義塾大学文学部教授。専門は哲学／倫理学。主な著書に『資本主義に出口はあるか』（講談社現代新書）、『ラカンの哲学：哲学の実践としての精神分析』（講談社メチエ）、『「経済」の哲学：ナルシスの危機を越えて』（せりか書房）、『西田幾多郎：歴史の論理学』（講談社）、『ドゥルーズ／ガタリの現在』（共著、平凡社）など。演劇の脚本を書いたり、ダンス作品のドラマトゥルクを担当したり、自分で暗黒舞踏を踊ったりしています（<https://bigakko.jp/event/2021/engeki-shuryokoen>）。



講座WEBページ
インタビューやレポートなどを
掲載しています

POP ILLUSTRATION 塾

スージー甘金＋小田島等

定員：10名
授業日：隔週火曜日 19:00～22:00
教程維持費：11,000円（年額）
開催教室：本校

“POP” というこの言葉は一体どこからやって来たのでしょうか？

「ポン！（POP！）」とコーラ瓶の栓が抜けるオノマトペ表現が爽やかなイメージと共に存在している事も忘れてはなりません。芸術史においては1950年代末のイギリスで行われた小さな勉強会で『POP ART』が論考／定義されることによりこの言葉に大きな意味が加わる事となります。そして次第にロック、イラストレーション、デザイン、ファッションなど、有形無形に幾多のカルチャーへとその根を広げて、『POP』は現代人が当たり前のように親しむ表現になりました。

私たち講師二名の業界経験を踏まえ、このユニークで大きな源泉「POP」に寄り添いながら、オリジナルの表現を探って行きたいと思えます。イラストレーションやデザインと言う職能的な枠組みに捉われること無く、ペインティング／コラージュ／版画などの様々な手法を使って、実践的に「POP ILLUSTRATION」を学べる講座となります。

授業内容の一例

- ・キャラクター創作
- ・絵と文字の関係を探る
- ・塗り＋コミック＝“塗りコミック”を描こう
- ・立体作品制作
- ・レコードジャケット制作
- ・レーザーカッターを使ってみよう
- ・引用の手法、コラージュを楽しもう
- ・“描かずに描く”トレースによる作品制作
- ・座学：『POP』ア라운드・カルチャー史 ほか

スージー甘金

1956年東京生まれ。元祖マンガイラストレーター、コミック画家。

多摩美術大学グラフィックデザイン専攻卒業。1982年に雑誌「宝島」でデビュー後、多くの雑誌や広告、TVCMなど多くの媒体にイラストを提供。吹き出しやキャラクターなどのマンガ的要素や企業ロゴ、現代アートのモチーフを徹底的に引用した諧謔的作風は、後進の作家たちに多くの影響を与える。また、多摩美術大学非常勤講師、京都精華大学特任教授、その他多くの専門学校での講師を歴任する。

音楽業界のクライアントワークも多く、電気グルーヴのロゴやジャケットワークをはじめ、KUWATA BAND、山下達郎、村松邦男、LÄPPI SCH、The Collectors、河内家菊水丸、平松愛里などのジャケットに数多くのイラストレーションを提供。主な著作に『POPPO ART』（荒地出版社）、『少年ボンチ』（ジャパニックス）、『塗 COMIX』（音楽出版社）などがある。

1980年代より個展も多数開催し、2022年 FAITH GALLERY で開催した2人展「艺术包」では、デュシャンの「泉」とウォホルの「キャンベル缶」を足して商業で割った“極東 POP” オブジェ「艺术包缶」150缶を完売。

昨年、小田島等とともに“日本ポップアート協会”を結成。60年代ポップアートを再評価すると同時に、その精神を受け継いだ2020年代対応の新型ポップ・イラストレーター＆ポップ画家の発掘および育成を行っている。

小田島等

1972年東京生まれ。デザイナー、イラストレーター。ギャラリー VOID / FAITH 運営。

桑沢デザイン研究所卒業。15歳の時にポップアートと出会い明確な意志を持って絵を描き出す。高校時代に雑誌『イラストレーション』誌上コンペ「ザ・チョイス」にて印刷物デビュー。専門学校時代にスージー甘金のコガネ虫スタジオで修行し、“POP”の矜持に触れる。

1995年より音楽ジャケットや書籍装丁、広告物などのデザイン及びアートディレクションをスタート。音楽系では遠藤賢司、はっぴいえんど、ムーンライダーズなどのベテランから、サニーデイ・サービス、シャムキャッツ、くるりなど幅広く手がける。MVのディレクション・ワークも多数。近年では小説家・吉本ばななの装丁を手がける。

主な著作にデザイン作品集「ANONYMOUS POP」(P-vine books)、漫画作品「無 FOR SALE」(晶文社)、監修本「1980年代のポップ・イラストレーション」(アスペクト)がある。音楽ユニット BEST MUSIC としても活動し、2007年発表の『MUSIC FOR SUPERMARKET』は「早過ぎた VaperWave」と評され、近年では海外でも評価が及ぶ。



講座 WEB ページ

楽理基礎科 ～ゼロからはじめる音楽理論 菊地成孔

定員：15名
授業日：隔週水曜日 19:00～21:30
教程維持費：11,000円（年額）
開催形式：オンライン／対面（本校）

魅力的な楽曲の構造を支える『コード進行』の理論をゼロから学んでいきます。

作曲知識がゼロの方はもちろん、『独学での勉強に行き詰まった』という方や『楽器を弾けるものの手癖でなんとなく済ませている』という方、『改めて基礎から学び直したい』という方まで、コード進行のための基礎理論から、実際にそれらを鍵盤で演奏するところまでを学びます。

本クラスの落としどころとしては『一般的な J-POP 程度の楽曲構造が理解できるようになる』ところまでの楽理知識の習得が可能です。

授業内容

- ・ホールトーン・スケール
- ・メジャー・スケール／マイナー・スケール
- ・四度圏表
- ・メジャー・ダイアトニック
- ・マイナー・ダイアトニック
- ・同主長短調／並行長短調
- ・ケーデンス
- ・ケーデンスの4つのバリエーション：マイナー行き、二次、裏、DC
- ・ディミニッシュ
- ・テンション
- ・調性拡張
- ・楽曲分析

授業では基本的に五線譜は使用せず、鍵盤およびコード譜を用いて進みます。特に『鍵盤を実際に弾く』事には多く時間が割かれますので、ごく基礎的なピアノ伴奏程度であれば出来るようになります。実際に演奏することで、打ち込みでの曲作りや、音感の啓発に理論を直結させることができます。また、授業内容は受講生の理解度に応じて若干の変更の可能性があります。

授業アーカイブによる復習と補完

授業は毎回アーカイブし、録画データを Vimeo にてストリーミング／受講生限定公開にて提供いたします。

菊地成孔

ジャズメンとして活動 / 思想の軸足をジャズミュージックに置きながらも、ジャンル横断的な音楽 / 著述活動を旺盛に展開し、ラジオ / テレビ番組でのナビゲーター、選曲家、批評家、ファッションブランドとのコラボレーター、映画 / テレビの音楽監督、プロデューサー、パーティーオーガナイザー等々としても評価が高い。

「一個人にその全仕事をフォローするのは不可能」と言われる程の驚異的な多作家でありながら、総ての仕事に一貫する高い実験性と大衆性、独特のエロティシズムと異形のインテリジェンスによって性別、年齢、国籍を越えた高い支持を集めつづけている、現代の東京を代表するディレクター。

2010年、世界で初めて10年間分の全仕事をUSBメモリに収録した、音楽家としての全集「闘争エチカ」を発表し、2011年には邦人としては初のインパルスレーベルとの契約を結び、DCPRG 名義で「Alter War In Tokyo」をリリース。主著はエッセイ集「スペインの宇宙食」（小学館）マイルス・デイヴィスの研究書「M/D～マイルス・デューイ・デイヴィス3世研究（河出新書 / 大谷能生と共著）」等。音楽講師としては、東京大学、国立音楽大学、東京芸術大学、慶応義塾大学でも教鞭を執る（04年～09年）。



講座WEBページ
インタビューやレポートなどを
掲載しています

[募集なし] (次回募集は 2026 年度)

楽理中等科

～ジャズ／ジャジーなサウンドを奏でよう

菊地成孔

このクラスでは、基礎的なコード理論の理解を前提に、さらにそれをジャズやボサノバ、R&B など、複雑な楽曲において使いこなすための音楽理論を学んでいきます。

独学で音楽理論をある程度使いこなせているという方でも、テンションやオルタード、モードといった高度な理論に関しては、なかなか独学だけでは行き詰まってしまうがちです。

音楽理論を極めて行く上で壁となる中級以上の理論体系を、実際の鍵盤の演奏や、楽曲分析を通して勉強していきます。

※本クラスは『楽理基礎科』と隔年での開催となります。次回の開講は 2026 年度です。

授業内容

- ・ダイアトニック統合 (受講生のリテラシーの統一)
- ・調性拡張～オルタード・ドミナント
- ・モード I
- ・モード II
- ・ハイブリッド・コード
- ・コードとモードの統合
- ・楽曲分析

■ 授業では基本的に五線譜は使用せず、鍵盤およびコード譜を用いて進みます。実際に演奏することで、打ち込みでの曲作りや、音感の啓発に理論を直結させることができます。

■ 具体的な楽曲分析も数回予定しています。分析のための手法を講師と体験しておくことで、卒業後の独学での勉強に役立てることが出来ます。

■ 授業内容は、受講生の理解度に応じて若干の変更の可能性があります。

受講条件

本クラスは音楽理論の基礎理解を前提として授業が進みます。

任意のコード進行に対して

- ・キーを同定できる
- ・ディグリー (I Δ 7, II m7 など) を割り当てられる
- ・ケーデンスラインを引く事が出来る
- ・一次ケーデンス/二次ケーデンス/裏ケーデンスをそれぞれ理解している
- ・テンション表記を理解できる
- ・平行長短調、同主長短調といった関係調の基礎理解がある

といったスキルが受講における最低ラインの目安となります。

完璧に理解できている必要はなく、細かい部分の知識の擦り合わせは行っていきますが、土台となる基礎理解に関しては必須とさせていただきますのでご注意ください。受講条件についてご質問等ありましたら、お申し込み前に事務局までご相談ください。

定員：15 名

授業日：隔週水曜日 19:00～21:30

教程維持費：11,000 円 (年額)

開催形式：オンライン/対面 (本校)

授業アーカイブによる復習と補完

授業は毎回アーカイブし、録画データを Vimeo にてストリーミング/受講生限定公開にて提供いたします。

菊地成孔

ジャズメンとして活動 / 思想の軸足をジャズミュージックに置きながらも、ジャンル横断的な音楽 / 著述活動を旺盛に展開し、ラジオ / テレビ番組でのナビゲーター、作曲家、批評家、ファッションブランドとのコラボレーター、映画 / テレビの音楽監督、プロデューサー、パーティーオーガナイザー等々としても評価が高い。

「一個人にその全仕事をフォローするのは不可能」と言われる程の驚異的な多作家でありながら、総ての仕事に一貫する高い実験性と大衆性、独特のエロティシズムと異形のインテリジェンスによって性別、年齢、国籍を越えた高い支持を集めつづけている、現代の東京を代表するディレクター。

2010 年、世界で初めて 10 年間分の全仕事を USB メモリに収録した、音楽家としての全集「闘争エチカ」を発表し、2011 年には邦人としては初のインパルスレーベルとの契約を結び、DCPRG 名義で「Alter War In Tokyo」をリリース。主著はエッセイ集「スペインの宇宙食」(小学館) マイルス・デイヴィスの研究書「M/D～マイルス・デューイ・デイヴィス 3 世研究 (河出新書 / 大谷能生と共著)」等。音楽講師としては、東京大学、国立音楽大学、東京芸術大学、慶応義塾大学でも教鞭を執る (04 年～09 年)。



講座 WEB ページ
インタビューやレポートなどを
掲載しています

作曲演習 ～良いメロディを作る

高山博

定員：12名

授業日：隔週水曜日 19:00～21:30

教程維持費：11,000円（年額）

開催形式：オンライン

楽曲の魅力の源泉ともいえる『メロディ』を作る技術を学ぶ講座です。

様々な理論や音楽の知識を習得していても、実際に曲を作るとなると行き詰まりがちなのが、メロディ＝旋律を作るといことです。本講座では、才能や偶然で済まされがちなメロディの作曲を体系立てて学び、メロディを作るための方法を多面的に身に付けます。

メロディの流れを、ミクロな要素に分解して学んでいくことで、手癖や感覚に捕われずに、論理的にメロディを構築していくためのスキルが身に付きます。

なお、主としてポピュラー音楽の多くで用いられている、歌のメロディを中心に解説しますが、楽器のためのメロディや、メロ＝サビ以外の構成についても役にたつような内容となっています。

基礎から始め、歌詞とメロディの関係にも触れながら、『良いメロディ』を作るための技術を積み上げていきます。まずは短いフレーズをつくることから始め、オリジナル楽曲を仕上げしていきます。

授業内容

- ・概論 メロディを支える構造は何か
- ・音程Ⅰ 様々な音程を使おう
- ・音程Ⅱ 様々な音域を使おう
- ・リズムⅠ 様々な長さの音を使おう
- ・リズムⅡ ビートパターンとメロディの関係
- ・スケールⅠ 長調や短調を使う
- ・スケールⅡ ペンタトニックやブルーノートを使う
- ・和声Ⅰ 機能和声とメロディ
- ・和声Ⅱ 機能和声以外の様々な和声とメロディ
- ・歌詞 歌詞を生かすメロディ、歌詞に生かされるメロディ
- ・構成Ⅰ 曲はどのように構成される
- ・構成Ⅱ 典型的な楽曲の構成
- ・作曲Ⅰ 曲のテーマを考える
- ・作曲Ⅱ 曲の部分に適したフレーズを考える
- ・作曲Ⅲ フレーズを発展させる方法
- ・作曲Ⅳ サビを作る
- ・作曲Ⅴ ワンコーラスを構成する方法
- ・作曲Ⅵ コーラス以外の部分を作る
- ・作曲Ⅶ 曲の始め方、終わり方
- ・作曲Ⅷ 曲をまとめる
- ・卒業制作実習Ⅰ 実習と添削 良いメロディとは何か
- ・卒業制作実習Ⅱ 実習と添削 良いメロディとは何か

授業アーカイブによる復習と補完

授業は毎回アーカイブし、録画データをVimeoにてストリーミング／受講生限定公開にて提供いたします。

高山博

クラシックや民族音楽からポップスやロックまで幅広い知識と経験を持ち、CD、TVドラマ、イベント等、様々な分野で活躍中。アコースティック楽器とともに、コンピュータとシンセサイザーを使った音楽制作に、その最初期から取り組んでいる。

近年は執筆活動も盛んで、RittorMusic「サウンド&レコーディング・マガジン」「キーボード・マガジン」などに作曲や音楽理論に関する寄稿多数。著書としては「クリエイター直伝！DAW作曲&トラック製作ビギナーズ・バイブル（共著）」「Logic Pro9 for Macintosh 徹底操作ガイド」など、DTM関連の書籍を多く出版している。

昨年以上梓された『ビートルズの作曲法』『ポピュラー音楽作曲のための旋律法』では、独自の視点による作曲技法の体系が高い評価を得ている。



講座WEBページ
インタビューやレポートなどを
掲載しています

歌う言葉、歌われる文字

鈴木博文、emma mizuno (アドバイザー)

定員：12名
授業日：毎月1回 基本第四金曜日
(年間11回+ミニライブ+修了ライブ)
19:00～21:30
教程維持費：15,400円(年額)
開催形式：オンライン／対面(本校)

愛しい言葉を歌詞にすることは難しいことではありません。同じようにその歌詞を歌うという最終表現に導くことも、とても楽しいことです。

2時間半の短い時間内に一行でもいいから、自分の愛しい言葉で詞を書きましよう。

そしてそれをみんなで批評しましょう。ここで大切なのは言葉を表出する前に、その言葉は自分にとって本当に愛しいものなのか、という自己批判です。そこを少しでも、まあいいか的にしてしまうと後々が困る。次々に出てくるだろう言葉の入った壺に蓋をしてしまうことになりかねません。人はそれぞれに謎に満ちた自分だけの言葉の壺を持ち歩いているのです。他者に見られる、他者の詞を味わうというのはとてもいい経験になるはずですよ。

歌詞の講座ではあるけれど、講座を重ねる中で、詞を作り、曲も作り、そしてそれを自分で歌い自分の詞が曲になり「歌詞」になるところを体感してほしいと思っています。

まずは詞が作れるようになることが目標。

作詞が精いっぱい、という人には曲づくりをサポート、詞と曲までという人にはサウンドをサポートします。

自身で最後まで仕上げられれば無論、協力し合って作品を仕上げ、ミニライブという形で数回発表していきます。

最終的に各自が楽曲1曲から2曲を仕上げ、最後の講座でライブをします。そして折角作った可愛い楽曲達、希望者には録音し音源化までわたしと一緒にたどり着きましょう。

【ミニライブ、曲作りについて】

本講座は「歌詞」の講座なので、まずは作詞に専念いただいて大丈夫です。素敵な詞をつくって、あとはこちらに委ねてくだされば、曲作り、作品化までサポートします。曲作りも関心を持って取り組んでくださるのも大歓迎です。

ミニライブ等発表の場は、スタジオ／本校で開催予定です。オンラインで講座にご参加の方は、その時だけ来校いただくか、ご自身での収録をお願いすることになります。美学校から遠方の場合などは、別途ご相談の上決めていただければと思います。

【Discordによる添削サポート】

本講座ではDiscordというオンラインチャットツールに課題作品をご提出いただきます。その際、ご提出いただいた作品は講座の時間外でも随時講師から添削やアドバイスを受けることができます。

また、講座内容に関するご質問や、受講生同士のコミュニケーションツールとしてもご活用いただけます。

授業アーカイブによる復習と補完

授業は毎回アーカイブし、録画データをVimeoにてストリーミング／受講生限定公開にて提供いたします。

鈴木博文

1954年5月19日、東京都生まれ。
1973年より、松本隆、矢野誠らとムーンライダーズ(オリジナル・ムーンライダーズ)として音楽活動を始める。実兄・鈴木慶一に誘われ、1976年にmoonridersに参加。バンドではベースを担当、また多くの作詞・作曲も手がける。

1987年に自身主催のインディペンデントレーベル「メトロトロン・レコード」を立ち上げると同時にアルバム『Wan-Gan King』でソロデビュー。現在までに13枚のオリジナルアルバムを発表。

レーベルのプロデューサーとしてさまざまなミュージシャンの輩出を支え続ける一方、アーティスト、アイドルへの作詞・楽曲提供、The Suzuki (w/鈴木慶一)、Mio Fou (w/美尾洋乃)、政風会 (w/直枝政広) などユニット活動もあり。

執筆活動では『ああ詞心(うたごころ)』、『その綴り方』、『僕は走って灰になるーTEN YEARS AFTER』、『九番目の夢』、『はじめての作詞』など。



講座WEBページ
インタビューやレポートなどを
掲載しています

[募集なし] (次回募集は未定です)

実践！自己プロデュースと作品づくり ～作品を作り世に出すまで 入江陽

この講座では、「作詞、作曲」および音楽作品を何らかの形で世に「発表する」ことに特化して学び、実践していきます。

アーティストとしてこういったコンセプトで作品を作り、自分の音楽を世に出していくか？

歌ものにおいて魅力の“核”となる詞と曲のオリジナリティや世界観を掘り下げながら、完成した作品を実際に発表していくことまでが目標となります。

「自分の曲をサブスクリプションで配信したい」「好きなレーベルから作品をリリースしたい」「音楽単体ではなく、演奏動画の形で SNS や YouTube で発表したい」などなど、受講生それぞれの技術やスタイルをカウンセリングしながら、各自が最適な形で自分の楽曲を世に出すことを目指します。

何か作るなら、できれば“楽しく”作品を完成させ、“いい気分”“いい形で”発表したいものです。「作品づくり」は本来、うまく付き合えば「豊かな営み」であるはずです。

しかし「完璧主義」「忙しい」「人目も気になる」「方法がわからん」「きっかけも無い」「疲れた」など落とし穴はたくさん。

そんな障壁を乗り越え、皆さんと一緒に良い作品作りに取り組んでいければと思います。

授業内容

0) 個別カウンセリング

まずは講師による受講生個別カウンセリングを行い、みなさんの志向や現状を確認します。目標ややりたいことが明確な方、何となく創作を始めてみたいけどどのように自分の作品を発表していくか迷っている方 etc... 様々なモチベーションの方が参加されますので、各自のスタンスを明らかにしつつ目標設定していきます。

1) 作戦会議

■目標の設定

年間／半年／月単位で目標を立て、制作を継続するための見通しを共有します。自分が楽しんで作品作りに取り組むためのゴールを明確に言語化し、全員で共有します。

■技術的ハードルを乗り越える

目標実現のための技術的ハードルなども具体的に吟味します。

■みんなでお互いをプロデュース

制作過程から全員で共有していくことで、受講生同士お互いにポジティブな意見交換を行うことが可能です。作品作りは最終的には孤独な作業ですが、そこで刺激を与え合いつつ切磋琢磨できる環境となっています。

2) 実作と講評

作戦会議で自分たちのやるべきことを明確にしたら、どんどん作品作りに取り組んでいただきます。

3) 座学

課題制作だけでなく、適宜インプットのための座学的なレクチャーも予定しています。講師の作品を教材に曲作りのプロセスをレクチャーしたり、制作における相談や質問に答えていきます。

4) またまた作戦会議

制作の進捗に沿って、適宜作戦会議を行なっていきます。無理のない範囲で作品作りの継続を後押しします。

以上の要素を一年通して行なっていきます。
各自の目標達成にむけ、一年間楽しく頑張りましょう。

定員：-
授業日：-
教程維持費：-
開催形式：-

授業アーカイブによる復習と補完

授業は毎回アーカイブし、録画データを Vimeo にてストリーミング／受講生限定公開にて提供いたします。

入江陽

1987年、新大久保生まれ・育ち。シンガーソングライター。映画音楽の制作や、文筆、プロデュースなども行う。

【シンガーソングライターとして】

最新アルバムは4枚目となる「FISH」(2017年)。

【映画音楽家】

「街の上で (今泉力哉 監督)」「月極オトコトモダチ (穂山茉由 監督)」「最低。(瀬々敬久 監督)」「タイトル、拒絶 (山田佳奈 監督)」他。

【文筆】

雑誌『装苑』で Netflix などの配信コンテンツを紹介する「はいしん狂日記」を、雑誌『ミュージック・マガジン』で、毎号ゲストを迎えゲストが選んだ10曲について対談する「ふたりのプレイリスト」を連載中。

【その他の活動】

泉まくら、Have a Nice Day!、TAMTAM、本日休演、宇宙ネコ子、後藤マズヒロなど、多彩なジャンルの音楽作品に、歌手としての客演多数。「あるあるネタ」を“共感詩”として発表するイベント 共感百景 (2018年10月) に出演。レーベル / 出版社 MARUTENN BOOKS を主宰。さとうもかのフルアルバム「Lukewarm」「Merry go round」のプロデュース。



講座WEBページ
インタビューやレポートなどを
掲載しています

魁！打ち込み道場

～サウンドデザインとシンセシス、 プロダクションテクニック

n u m b

定員：12名
授業日：不定火曜日 19:00～21:30
教程維持費：11,000円（年額）
開催形式：オンライン

エレクトロニック・ミュージックを中心に、DTMによる音楽制作を総合的に学ぶ講座です。ジャンルの細分化が著しいエレクトロニック・ミュージックですが、あらゆる方面に応用可能なスキルを基礎からじっくり学びます。

・ミックス／サウンドデザイン

パンチのある低音から抜けの良い高音まで、現代的なエレクトロニック・ミュージックを作る上で必要とされるサウンドデザインのスキルを学びます。『良い音』を作る上で助けになる様々なプラグインを紹介、実際に使用しながら、如何にしてカッコいいサウンドを作っていくかを実践します。

・シンセサイザー

フリーで使えるシンプルなものから始め、まずは基本的な構造をしっかり理解していきます。基本理解が深まったら、より複雑なシンセの使い方や、実際の楽曲を参照しつつ様々なサウンドマテリアルを作るなど、応用的な内容に進みます。『この楽曲のこのサウンドはどのようにして作られているのか？』しっかり構造から理解しつつサウンドを作っていくことで、様々なシチュエーションに応用可能なスキルを身につけることが目標となります。※受講生のレベルや理解度によって使用するシンセや授業進行は調整します。

・打ち込み実習

サンプラーやオーディオ編集等を用いてビートの打ち込みの実習を行います。特定のジャンルを想定したエレクトロニックなビートフィギュア構築の練習や、生っぽいドラムの打ち込み方まで、様々なビート制作を練習します。

・ライブ実習

クラスのアウトプットとして、中目黒 solfa など外部スペースを使ったライブ実習を予定しています。裏方志向の方も、実際にクラブ環境でのライブを経験しておくことで、出音への意識は確実に高まります。※コロナウィルスの状況次第ではライブ実習は見合わせる可能性があります。あらかじめご了承ください。

授業アーカイブによる復習と補完

授業は毎回アーカイブし、録画データをVimeoにてストリーミング／受講生限定公開にて提供いたします。

n u m b

New York Institute Of Audio Reserch、エンジニアリング科卒業。Hip Hopグループである『Buddah Brand』のマネージャーとしてキャリアをスタートする。

1995年よりNumb名義でのアーティスト活動を始動。シンセサイザーやコントローラー等のエレクトロニック・デバイスやラップトップを用いた演奏活動も数多く行っており、< FUJI ROCK FESTIVAL > や < Metamorphose > 等、海外ではパリで行われた < Batofar > や、アムステルダム < Sonic Light >、そしてデンマーク < Future Sound Of Jazz Festival > 等で演奏している。自身のレーベル『Revirth』を主宰し、2012年には約6年ぶりとなる4thアルバムをリリースした。

国内エレクトロニック・ミュージック・シーンの立役者として、その黎明期から今日まで活躍中。

授業内容

- ・シンセサイザーの概要
- ・シンセシス・テクニック
- ・サンプリング・テクニック
- ・様々なサウンド・デザイン
- ・ビート打ち込み実習
- ・ミックス
- ・DAWのスキルやミックスダウンのテクニック
- ・モジュラー・ソフトウェア・シンセサイザーについて
- ・コントローラー等のエレクトロニック・デバイスについて
- ・ラップトップ等のエレクトロニック・デバイスを使用したライブ・パフォーマンスについて

※使用機材について

最新版 Ableton Live がインストールされたPCとヘッドフォン（orイヤホン）をご用意ください。エディションは『suite』版が推奨です。Liveは本校学割にて購入可能ですので、未所持の方はお申込み後に学生証を用いて購入してください。使用ソフトのバージョン等に関してご不明な点は受講前／ソフト購入前にお問い合わせください。

なお、ソフトの使用スキルは不問です。初心者の方もお気軽にご相談ください。



講座WEBページ
インタビューやレポートなどを
掲載しています

アレンジ & ミックス・クリニック ～自分の楽曲の完成度を高める 草間敬

定員：8名
授業日：隔週木曜日 19:00～21:30
教程維持費：11,000円（年額）
開催形式：オンライン

本講座では、音楽作品のクオリティを決定する重要なファクターである『アレンジ（編曲）』と『ミックス』を中心に学びます。

楽曲の構成や編成を練り上げ（アレンジ）、それらを魅力的なサウンドに落とし込んでいく（ミックス）ことは、思いついたメロディや音楽的アイデアをより良い形でリスナーに伝えるためにますます重要になってきています。

しかしアレンジやミックスは流行やジャンルなどによって大きく左右される要素であり、常に不変の“正解”が存在しないため、制作に当たってジャッジに迷う方も多いのではないのでしょうか。

この講座では、時代を問わず必要な普遍的な基礎スキルから、より実践的な現在進行形のスタイルに至るまで、各自の音楽作品をより良い形でプレゼンテーションするための技術を身につけることを目指します。

「自分の求めるサウンドにとってのゴールがどこなのか？」を把握し、そのために必要な技術を習得し、そして経験豊富な講師のフィードバックを浴びることで、確実に自分の目指すサウンドに近づくことができるでしょう。

授業内容

毎回の授業では、受講生の作品講評と講義を行います。

作品講評では、受講生の作品を聴き、良いところ・改善した方が良いところなどを全員で話し合います。講師からの指導のみならず、趣味志向や活動ジャンルの異なる受講生同士が切磋琢磨しあうことが出来ます。少人数クラスの強みを生かし、各自の個性を尊重しながら楽曲クオリティの向上を目指します。

講義では、アレンジやミックスに関する知識を基礎から実践まで解説していきます。5月～9月までは基礎的なトピックを扱い、10月からはより実践的な内容にすすみます。また、受講生のレベルや理解、リクエストなどに応じて適宜内容は変動します。加えて、講義だけでなく受講生のプロジェクトファイルを添削する形でアレンジやミックスを実演するなど、実践的かつ具体的な内容になっています。

【講義パートで扱うトピック】

◆ 5月～9月【基礎編】

- ・音楽理論基礎
- ・ベース、上物など
- ・ミックス基礎
- ・アレンジ&ミックス実演

◆ 10月～3月【応用編】

- ・メーターと音圧
- ・ミックス応用
- ・アレンジ&ミックス実演

授業アーカイブによる復習と補完

授業は毎回アーカイブし、録画データをVimeoにてストリーミング/受講生限定公開にて提供いたします。

草間敬

アレンジャー、レコーディングエンジニア。

音楽理論からシンセサイザーまで幅広いスキルを有し、AA=, 金子ノブアキ, KenKen, RIZE, [Alexandros], BIGMAMAなど、20年以上に渡って多くのミュージシャンの制作に関わる。

ableton Live 認定トレーナーでもあり、ableton Live に関するレビューや講演も多数。近年は制作のみならずライブオペレーションでも活躍中で、AA=, 金子ノブアキ, SEKAI NO OWARI などのステージをサポートする。



講座WEBページ
インタビューやレポートなどを
掲載しています

DTM 基礎～ Ableton Live 編～

yuichi NAGAO

定員：12名
授業日：5～11月/全10回
第1、第2火曜日 19:00～21:30
教程維持費：11,000円（年額）
開催形式：オンライン

この講座では Ableton Live というソフトを用いて DTM による音楽制作の基本を学びます。音楽制作初心者の方を対象に、曲作りの基礎知識の学習を通してソフトの操作を習得することを目指します。

講師より

DTM の普及によって個人による音楽制作が当たり前になった昨今。それは制作において個人に求められる技術が増えたということも意味します。作詞作曲から編曲、ミックスに至るまでを一人でゼロから始めようとする、どこから手をつけて良いか悩ましいという人も多いのではないのでしょうか。

本クラスでは音楽制作の各工程において用いられる基本的な知識や技術を可能な限り幅広く学ぶことを目指します。知識の学習と並行して、実作課題を通して Ableton Live の使用方法を習得していきます。習得スキルを幅広くカバーするために歌ものポピュラーミュージックの制作を想定していますが、ジャンル問わず応用可能な基礎的なスキルを解説します。

もちろん限られた授業時間の中で全ての技術や知識を完璧に理解することは不可能です。

そのため、今後みなさんが継続して学習や制作を続けていくための基盤を作るべく、全てのパラメータをひとまず満遍なく『0から1』まで成長させることを目指して進めていきます。その上で、興味を持った分野をさらに各自が掘り下げられるような道筋を提案できればと思います。

趣味、職能を問わず音楽を作るという行為は楽しいものです。楽しく音楽制作を始めるための一助として本講座を利用してもらえたら幸いです。

授業内容

- 6月 1) ガイダンス～音楽制作の基本
- 2) ビートを作る～オーディオと MIDI
- 7月 3) サウンドを作る～シンセとサンプラー
- 4) フレーズを作る～ノートとスケール
- 8月 5) 音楽理論を学ぶ～スケールとコード
- 9月 6) ポップスを作る～コードとメロディ、歌詞
- 7) 編曲と構成①
- 10月 8) 編曲と構成②
- 9) ミックス
- 11月 10) まとめ

※受講生の理解度に応じて調整しつつ進めていくため授業カリキュラムは変更の可能性がります。

【授業の進め方】

基本的に ZOOM によるオンライン授業となります。（初回のみオンラインと対面のハイブリッドでの開催を予定）併せて授業時間外でもチャットツールの Discord を用いてサポートを行います。授業内で理解できなかった部分などは随時質問を受け付ける他、課題提出なども Discord にて行います。

※使用機材について

最新版 Ableton Live がインストールされた PC とヘッドフォン（or イヤホン）をご用意ください。エディションは『suite』版が推奨です。Live は本校学割にて購入可能ですので、未所持の方はお申込み後に学生証を用いて購入してください。

使用ソフトのバージョン等に関してご不明な点は受講前/ソフト購入前にお問い合わせください。

なお、ソフトの使用スキルは不問です。初心者の方もお気軽にご相談ください。

授業アーカイブによる復習と補完

授業は毎回アーカイブし、録画データは Vimeo にてストリーミング/受講生限定公開にて提供いたします。

yuichi NAGAO

作編曲家。広告音楽等のクライアントワークをこなす傍ら、ビートミュージックやジャズに影響を受けた電子音楽、ボカロ楽曲を制作。電子音楽の分野においては PROGRESSIVE FORM や Diverse System 等のレーベルから作品を発表、2018年に『ハルモニア』MV が文化庁メディア芸術祭にて優秀賞を受賞。ボカロPとしては先鋭的な合成音声コンピ『合成音声のゆくえ3』に参加。近年は音楽ゲームへの傾倒を深め、太鼓の達人、CHUNITHM、SOUND VOLTEX、ポラリスコードなどに楽曲が収録されている。



講座 WEB ページ

美楽塾

JINMO+不定期でゲスト

かつて松下村塾の吉田松陰師はいった、「諸君、狂いたまえ」。

現代の芸術教育などに於いては、"如何に処理して、如何なるアウトプットを実現するのか"ということのみに眼が向けられ、それを当然として疑う者が少ない。

しかし、真実には、そうした技術論以前に"如何なるインプットを"という問題こそ重要であり、良質のインプット無しには良質のアウトプットはあり得ない。

食べたものに応じたウンコしか出る訳があるまい。

美しいインプットに貪欲であれ。

本講義は芸術表現の技法や知識といった"情報"の伝授の場ではない。

五感、総ての感覚器官で対峙する状況における美の"体験"を実感する場としたい。

その為に例え非常識と誇られようと校舎といった限定空間を拒絶し、また決まった曜日・時間といった予めの決め事からも解放された講義にする。

また講義中の飲酒、喫煙、飲食、放尿、飲尿、全裸、自慰、緊縛、女装、Tweetなどは完全にOK(総て過去実際におこなわれた)だ。

更に何をしても良いという自由だけでなく、何もしなくても良いという自由も同時に、私は保証する。

頻繁に各界から刺激的なゲストも呼ぼう。

数十世紀の時間の中でエスタブリッシュされた"美学"の中ではなく、歴史的堆積や文化的共通認識といった情報現実のもたらすフィルター類に干渉されない、各受講生中の絶対的な唯一の"美意識"の天真爛漫な自由奔放を実現したい。

幼子の頃、泥だらけ、傷だらけになる事も厭わず、「晩御飯ですよ」という母親の声も耳に入らず、常識通念も規則規範も社会的承認とも無縁に、日暮れの幼稚園の砂場で一心不乱に遊んでいた時の砂の触覚美、草の嗅覚美、土の味覚美、風の聴覚美、そしてふと眺めた夕焼けの視覚美…、まだフィルターを身に纏わなかったその頃、対峙する状況には豊富な美との邂逅が確在し、美の価値の上下などそこには無く、幼子の五感に世界は美しかった。

今日において成長や学習とは果たして、世界をより美しく知覚させてくれるのだろうか。

畢竟、美とは学ぶものなのか。

諸君、"美楽塾"とは、永遠の砂場である。

共に世界を遊び狂い、美を楽しみ狂おう。

諸君、狂いたまえ。

定員：10名

授業日：木曜 20:00 ~ 22:00

(毎月1~3回/年間20回)

※開催日は、参加受講者間で予定調整を行い決定していきます。

教程維持費：11,000円(年額)

開催教室：外部

JINMO

書家を母に持ち、幼少期から書を始め。絵画、書、コンピュータ・グラフィックス、アニメーション等、表現のメディアやジャンルに拘らない視覚芸術を創出する一方、ギター奏者としても活動。国内はもとより海外で数百回に及ぶ公演をおこなっている。また、『ギター・マガジン』にコラムを連載するなど、多方面に活躍する。

過去のゲスト講師

遠藤ミチロウ(ミュージシャン)、クラス・ヘックマン(ミュージシャン)、GMナイル(ナイルレストラン店主)、なつみ女王様(BDSM)、大野慶人(舞踏家)、クリストフ・シャルル(武蔵野美術大学准教授・メディアアート)、岡田聡(精神科医/MAGIC ROOM???オーナー)、住倉カオス(猿談家)、いくさばらとれは(肉体改造)、珍佐清(浅草ロック座総監督)、安達かおる(監督、V&R代表)、浅井隆(アップリンク社長、映画プロデューサー)、山田聖子(株式会社アートジャパン代表、靖山画廊代表)、Abe "M" Aria(ダンサー)、ステイヴエトウ(パーカッションリスト、重金属打楽器奏者)、Jan Marsupials Spanedal(パーカッション・ドラム奏者、"Marsupium Massacre"代表)、Jaakko Saari(ドキュメンタリー映像作家・フォトグラファー)、Kid'O(ショップ"Kurage"オーナー、Specializing in latex art)、ANANYA(媒体業)、白柳龍一(ナクソス・ジャパン株式会社 取締役副社長COO)、瀧川虚至(メカニック・イラストレーター、画家)、小倉正史(美術評論家)、山岸厚夫(漆象、漆工芸作家)、Dawn Mostow(ファッション・デザイナー)、ダニー田中(マジシャン)、久住昌之(漫画原作者)、上祐史浩(「ひかりの輪」(東西の思想哲学の学習教室)の代表)、臼井欽士郎(プロボクサー)、山浦嘉久(思想活動家 国際政治研究家)、Chris Cardone (Bass Player)、坪内隆彦(ジャーナリスト、『月刊日本』編集長)、武田崇元、山岸厚夫・山岸芳次、マリア、杉原悠人、木戸茂成、坪内隆彦(ジャーナリスト、『月刊日本』編集長)、小室芹奈(元AV女優、緊縛師、タレント)、牧田碧(歌人)、小路谷秀樹(映画監督)



講座WEBページ
インタビューやレポートなどを
掲載しています

JINMO

ライター講座 ～ライティングのための編集、 編集するためのライティング～ 柳楽光隆＋ゲスト講師

美学校のライター講座も6期目になりました。

この講座は文章を書くことを編集の視点も交えて考えるための講座です。別の言葉で言うなら、「自分の中にもう一人の編集者を作ることで執筆の質を上げることを目指す」講座です。

ただ文章を書くだけではなく、いつ、どこに、なんのために、書くのか、何を伝えたいのか、どこに届けたいのか、など、様々なことを考えながら書くための講座です。

半分は提出してもらった課題を私が講評する時間にします。受講生には自分で自分の課題を作ってもらいます。全員が自分の興味や関心、割ける労力、執筆可能なペース、執筆可能なボリューム、そして、執筆可能な難易度に合わせて、編集者としての自分がライターとしての自分に原稿を依頼するような気持ちで自分にふさわしい課題を設定してもらいます。まず、そこが編集的なトレーニングの第一歩です。

提出してもらった課題に対して、私はアドバイスをしたり、アイデアを出したりします。

受講生には躓いたところやしっくりきていないところ、上手くいったところやもっと上手くできそうなところ、もしくは疑問点や相談したい点などについて私と他の受講生に向けて話をしてもらいます。

つまり、「架空の編集会議」もしくは「ゼミ」のような形でみんなで講評をしていきます。

この架空の編集会議で様々な人の課題を見て、様々な人のアイデアや手法を学びながら、様々な人の様々な悩みを聞いて、疑問や相談に対する私のアドバイスやアイデアを聞いて、他の受講生が課題を仕上げたり、修正したり、磨き上げたりするプロセスを実際に見て、それを自分の課題に活かしながら、レベルアップを目指します。

課題の提出は月に1回くらいです。長くても短くても重くても軽くても何でもいいのですが何かしらの執筆可能な課題を自分に課してもらって、それを提出してもらいます。大変だと思いますが、がんばって書けることを書いてもらえればと思います。

その課題を書くための様々な視点を提供するためにプロのライターや編集者、その他、メディアに関わる方をゲストにお迎えして私と共に受講生に向けて話をしてもらいます。日々執筆や編集をしているプロの方に実際にやった仕事の例も出してもらいながら、執筆や編集のためのヒントを話してもらいます。同じことを私も毎回、30分ほどやります。自分が実際にやった仕事において事前に考えたアイデアやプランだけでなく、実際にどのような結果になったか、その振り返りや反省も含めて生々しい話を毎回皆さんにシェアします。手法や技術、アイデアだけでなく、プロでも頭をひねり、試行錯誤しながら、最善を尽くしている様から何かを学んでいただけたらと思います。

ちなみに私のモットーは自分のことを第一に考える、です。時には無理をして頑張りますが、それは自分のためですし、時にはペースを落としたり、休みますが、それも自分のためです。自分で自分の声を聞きながら、自分を労わることがライターとしていい仕事を長く続けるための条件だと思っています。なので、自分で考えながら、自分のペースでやりたい方はぜひ受講して下さい。私なりにサポートいたしますし、私がシェアできるものはシェアします。ぜひ、私と一緒に文章を書きましょう。

定員：15名

授業日：月曜日 19:00～21:30

(毎月1,2回/全15回+オンライン添削)

教程維持費：11,000円(年額)

開催形式：オンライン/対面(本校)

授業アーカイブによる復習と補完

授業は毎回アーカイブし、録画データをVimeoにてストリーミング/受講生限定公開にて提供いたします。

柳楽光隆

1979年、島根県出雲市生まれ。

出雲高校～東京学芸大学卒。

珍屋レコード(店長)、ディスクユニオンへの勤務を経て、2000年代末から音楽評論家。ときどきDJ・選曲家。

ジャンルを問わず幅広い音楽に関するテキストを中心に新聞、雑誌、ウェブメディアなどに執筆したり、レクチャーをしたり、ラジオで喋ったり。専門はジャズ。

音楽やアーティストの分析、シーンの解説だけでなく、教育機関やNPOなどによる音楽教育や音楽シーンのエコシステムに関するリサーチをライフワークにしている。



講座WEBページ
インタビューやレポートなどを
掲載しています

世界のリズムとグルーブ研究 ～西アフリカから K-POP まで～

横川理彦

定員：12名
授業日：隔週月曜日 19:00～21:30
教程維持費：11,000円（年額）
開催形式：オンライン／対面（本校）

グループの本体を DAW を使って分析するのが、本講座の目的です。

リズムやグルーブは、時代や場所によって感じ方・考え方・音楽としての現れ方が著しく違いますが、本講座ではポピュラー・ミュージックの現在形でエッジとなる部分を前期で、世界の民族音楽（及びその土地のポピュラー音楽）に現れる多様なリズムを後期で扱う予定です。

分析には DAW を用い、パターン化したリズム・アンサンブルを打点・なまり・音色をデータとして細かく点検した上で、演奏者たちがどのように感じ、どのように考えているかまで迫っていきます。

前期で取り上げる項目としては、Chris Dave、J.D.Beck、Drum'n Bass、EDM など。後期は西アフリカ、キューバ、ブラジル、中東、日本、バルカンなど。

実習やゲスト講師も予定しています。

授業内容

A サイダー 2020 年代のリズム・グルーブの焦点

- ・ Chris Dave 分析
Chris Dave の代表曲を取り上げ、DAW での分析の仕方を確認する
- ・ Pino Palladino/Blake Mills のアルバム「Notes With Attachements」のリズム分析（アンサンブルのグルーブ）
- ・ 現在のポップ・ミュージックのリズム
NewJeans、アメリカのヒットチャート曲のリズム分析。2020 年代曲
- ・ J.D.Beck 分析
- ・ Drum'n'Bass の流れ
レゲエ＞8ビート化＞Jojo Mayer＞Pinkpantheress
- ・ U.K. のビート・ミュージック
ガラージュ、Dub Step など。
- ・ EDM が包括する様々なエレクトロニックミュージック

B サイダー 世界のリズム

- ・ 西アフリカ
- ・ モロッコ
- ・ 西アフリカ／モロッコ 以外のアフリカ
- ・ ブラジル
- ・ キューバ
- ・ 西インド諸島（キューバ以外）
- ・ 南米（ブラジル以外）
- ・ 北米（主にニューオーリンズ）
- ・ 中東（アラブ、パキスタン、イラン）
- ・ 東南アジア（タイ、ベトナム、台湾、韓国）
- ・ 日本
- ・ バルカン
- ・ 地中海沿岸
- ・ 北歐／アイルランド／スコットランド／ウェールズ

横川理彦

作編曲、演奏家。80年に京都大学文学部哲学科を卒業後、本格的な演奏活動に入る。4-D、P-Model、After Dinner、Metrofarce、Meatopia 等に参加。電子楽器と各種生楽器を併用する独自のスタイルに至る。海外でのコンサート・プロジェクトも多数。

現在は、即興を中心としたライブ活動などのほか、演劇・ダンスのための音楽制作など多方面で活動中。また、コンピュータと音楽に関する執筆、ワークショップなども多い。ヨーロッパ、アフリカ、アラブ、日本と、世界中の音楽の DNA を徹底的に研究し、自身の作品に貪欲に取り入れる。

昨年 Whereabouts Records よりリリースした最新プロジェクト『RedRails』では、自身のヴァイオリンとエレクトロニクスに、フランス人トラッドミュージシャンとの即興を取り入れ、繊細な電子音響を構築した。



講座 WEB ページ

【オープン講座】 映画を聴く 岸野雄一

定員：30名
期間：5月～9月（全9回）
授業日：火曜日 20:00～22:00
（5/13、5/20、5/27、6/10、6/17、
6/24、7/8、8/5、9/2）
受講料：33,000円
開催形式：オンライン

この講座では、映画における音／音楽の歴史や方法論、その効果を読み解く技術、すなわち『映画の聴き方』を身につけていきます。

優れた映画音楽とはどういうものなのでしょうか？優れた音楽がそのまま優れた映画音楽になる訳ではなく、映画音楽には独自の技術や方法論が要請されます。

また、映画と音楽の関係に絶対的な正解は存在しません。代わりに、20世紀以降の映画史が積み上げてきた膨大なトライ＆エラーの歴史があります。

普段何気なく観ている映画のワンシーンも、そうした映画音楽独自の文法や技術の蓄積の結果として成立しているのです。

授業では講師の所有する膨大な映像アーカイブをプレイバックしながら、20世紀以降の映像の発達史から、21世紀現在にまで繋がる音と映像の発展史を解説し、概念と方法論を体系化していきます。

授業内容

- 第1回：映画における音のレイヤー
- 第2回：アンダースコアとソースミュージック
- 第3回：映画音楽の起源
- 第4回：サイレントからトーキー
- 第5回：音のフレームと主観的聴取
- 第6回：ライトモチーフについて
- 第7回：映画における音楽の効用
- 第8回：音と映像のテンポ感・リズム感
- 第9回：音楽のロジックと映像のロジックのすり合わせ

【授業で扱う映画】

○赤西蠟太 / 伊丹万作 ○秋日和 / 小津安二郎 ○アタラント号 / ジャン・ヴィゴ ○あの胸にもう一度 / ジャック・カーディフ ○アレキサンドル・ネフスキー / セルゲイ・エイゼンシュタイン ○イーザーライダー / デニス・ホッパー ○偽りの花園 / ウィリアム・ワイラー ○インセプション / クリストファー・ノーラン ○インディ・ジョーンズ / 魔宮の伝説 / スティーヴン・スピルバーグ ○雨月物語 / 溝口健二 ○浮草 / 小津安二郎 ○エクソシスト / ウィリアム・フリードキン ○女は女である / ジャン・リュック・ゴダール ○影なき狙撃者 / ジョン・フランケンハイマー ○陽炎座 / 鈴木清順 ○狩人の夜 / チャールズ・ロートン ○キルビル / クエンティン・タランティーノ ○グエムル / ボン・ジュノ ○グランドホテル / エドモンド・グールディング ○ケーブルホーグのパラード / サム・ペキンパー ○黒衣の花嫁 / フランソワ・トリュフォー ○座頭市 暴れ火祭り / 三隅研次 ○サスベリア 2 / ダリオ・アルジェント ○白い恐怖 / アルフレッド・ヒッチコック ○ジョーズ / スティーブン・スピルバーグ ○地獄の黙示録 / フランシス・フォード・コッポラ ○ショック集団 / サミュエル・フラー ○須崎パラダイス・赤信号 / 川島雄三 ○続・夕陽のガンマン / セルジオ・レオーネ ○ソーシャル・ネットワーク / デヴィッド・フィンチャー ○ゾンビ / ジョージ・A・ロメロ ○テシス・次に私が殺される / アレハンドロ・アメナーバル ○テキサスの5人の仲間 / フィルター・クック ○天国と地獄 / 黒澤明 ○どですかでん / 黒澤明 ○トラトラトラ / リチャード・フライシャー ○2001年宇宙の旅 / スタンリー・キューブリック ○日本橋 / 市川崑 ○ファンタジア / ベン・シャープスティーン ○風船 / 川島雄三 ○フェイスオフ / ジョン・ウー ○ブルー / 安藤尋 ○ベルリン天使の歌 / ヴィム・ヴェンダース ○北北西に進路を取れ / アルフレッド・ヒッチコック ○僕の伯父さんの休暇 / ジャック・タチ ○マーティ / デルパート・マン ○マリー・アントワネット / ソフィア・コッポラ ○見知らぬ乗客 / アルフレッド・ヒッチコック ○乱れ雲 / 成瀬巳喜男 ○未知との遭遇 / スティーブン・スピルバーグ ○ラストタンゴインパリ / ベルナルド・ベルトルッチ ○リッチ・アンド・ストレンジ / アルフレッド・ヒッチコック ○ロンゲストヤード / ロバート・オルドリッチほか、随時、多数。

授業アーカイブによる復習と補完

授業は毎回アーカイブし、録画データをVimeoにてストリーミング／受講生限定公開にて提供いたします。

岸野雄一

音楽家、オーガナイザー、著述家など、多岐に渡る活動を包括する名称としてスタディスト（勉強家）を名乗り活動中。レーベルオーナーとしては“Out One Disc”を主宰し、OORUTAICHI や Gangpol & Mit など個性豊かなアーティストをプロデュース。オーガナイザーとしてはMax Tundra 日本ツアーのアテンドをつとめるなど、常に革新的な『場』を模索している。

そしてアーティストとしては、人形劇＋演劇＋アニメーション＋演奏という総合的な表現に挑戦した音楽劇『正しい数の数え方』が第19回メディア芸術祭エンターテインメント部門で大賞を受賞した。

裏方からフロントマンまで、あらゆるフィールドを表現の舞台として活躍中。



美学校 本校3階 見取り図

美学校は、神田神保町の路地にある貸しビルの3階にあります。1970年にこの場所に越してきてから50年が経ちました。歴史を経て作り上げられてきた美学校の内部をご紹介します。



大教場

通常の授業で使用しています。普段は合板を5枚並べたテーブルを囲んで授業を行っています。土日は、テーブルを片付けて、イベントやワークショップを開催することもあります。



小教場

講義系の授業が行われていたり、当校代表の藤川が本を読んでいたたりします。相談事があれば藤川へ。入学相談から人生相談まで色々な話を聞いてくれます。授業時以外は開放しているので、気軽に入ってみてください。



廊下

展覧会やイベントのチラシやポスターがはられていたり、本棚には1970年代からの『ガロ』や『美術手帖』など貴重な本があったりします。チラシは自由に置いてください。



流し

歴史を経て、調理器具や食器が自然と揃いました。冬になるとみんなで鍋を作ったりする講座もあるようです。

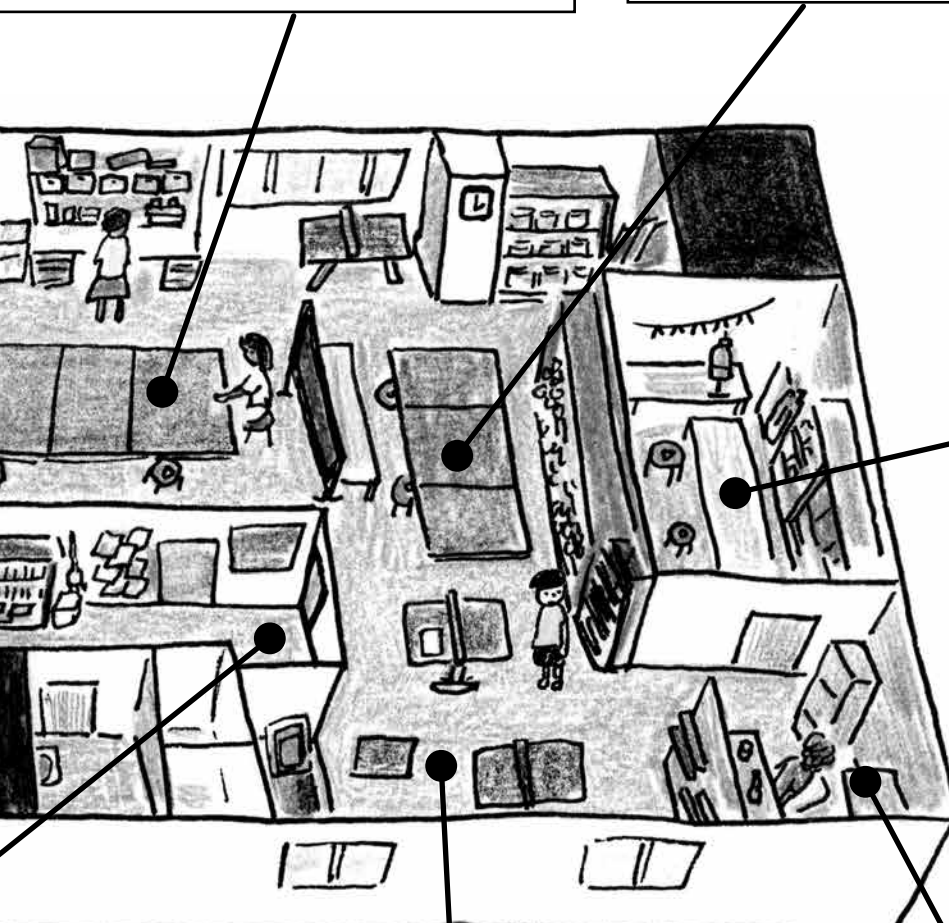
中教場

大教場とほぼ同じ広さの教場です。こちらも通常の授業で使用しています。手作りの大きなライトテーブルや版画の製版用の露光機などがあります。



自習スペース

自習や課題の制作に使われているスペースです。長年美術学校に通っている人もここで作業しているので、スペースの使用でわからないことがあれば聞いてください。



暗室

写真工場の授業で使用している暗室です。写真工場の受講生はいつでも使用できます。



水場

石版画で使う石版の石研ぎやシルクスクリーンの製版、銅版の腐食、アクアチントなどもここでを行っています。



事務局

運営スタッフがいる部屋です。入学手続きやご質問はこちらどうぞ。

イラスト：是澤ゆうこ

美学校 スタジオ

美学校 本校から徒歩3,4分ほどのところにあります。現役受講生と修了1年目は無料で、修了2年目以降は有料で利用することができます。用途は展覧会、イベント、公演、撮影、稽古など様々です。展覧会やイベントなどは事務局スタッフのサポートを得ることも可能です。



Q & A

▼入学試験はありますか？

ありません。申込みをして学費を納入すれば、誰でも入れます。年齢や学歴による制限もありません。

▼高校生ですが入れますか？

入れます。不安があればご相談ください。

▼未経験者でも大丈夫ですか？

大丈夫です。どの講座でも、経験者と未経験者が混じって受講していますが、原則的に未経験者を前提として授業を進めていきます。ただ音楽系の一部教程では、経験者を前提としている講座がありますので、ご注意ください。その場合は、講座のページに明記してあります。

▼学校見学会や説明会はありますか？

あります。毎年冬から春にかけて月3回程の頻度で行っています。見学会・説明会以外にも、個別の学校見学や入学相談など随時受け付けていますので、ご希望の方は、気軽にお問い合わせください。

▼申込み時期はいつですか？

5月期（新年度）の募集は、前年の12月後半から、10月期（編入）の募集は、8月中旬頃から開始しています。申込み締切りは、5月期は3月末、10月期は9月末です。先着順ですので、お早めにお申込みください。

▼1クラスの平均人数を教えてください？

少ないところで2,3人から、多くても10人程度です。楽理基礎科のみ15人程で授業を行っています。

▼課題はどれくらい出ますか？

講座によって異なりますが、社会人の方も多く来ますので、そういった方々が時間的にこなせないような量の課題が出ることはありません。

▼授業見学はできますか？

できます。連絡なしでいきなり授業見学に来ていただいても構いませんが、学外で授業を行っている場合もあるので、念のため事前にお問い合わせください。オンライン教程の場合は10ページの「4）オンライン授業の見学について」を確認の上ご参加ください。

▼修了試験はありますか？

ありません。講座の修了について、試験や単位、修了制作などの制限が課されている講座はありません。

▼授業以外の時間で教室は使えますか？

使えます。午前中は授業がないので、いつでも使えます。午後と夜は、授業が入っていない時であれば使えます。使用目的としては、制作や受講生同士のミーティングなどが多いですが、たまに飲み会なども開かれています。使い方やわからないことがあれば、事務局スタッフに聞いてください。

▼どんな人が来ていますか？年齢、職業、男女比を教えてください。

老若男女様々な人が来ています。高校卒業後に来る人、大学（美大生だけでなく一般大生も）や専門学校に通いながら来る人、大学や専門学校を卒業して来る人、フリーター、社会人、会社を辞めて来る人、主婦、留学生など年齢や職業は様々です。年齢層は、美術系の講座は20代～30代が多く、音楽系の講座は30代が多いです。男女比は、美術系の講座は、6:4、7:3ぐらいで女性が多く、音楽系の講座は、8:2ぐらいで男性が多いですが、少人数のため年によって大きく変わることがあります。

▼修了生はどんな活動をしていますか？

本当に様々な仕事、活動をしています。中には、著名なアーティスト、イラストレーター、デザイナー、編集者、漫画家（etc.）などになった人もいますが、表に名前が出ない人でも面白い活動をしている人、いい作品を作り続けている人は数多くいます。また、美学校を出てから何かになるのではなく、既にアーティストやデザイナー、イラストレーター、ミュージシャン、編集者（etc.）として活動している人たちも来ています。

▼資格が取れたり就職できたりしますか？

資格を取るための講座は開講していません。就職の斡旋もしていません。資格や職を求めてこの学校に来る人はいないようです。

▼子どものクラスはありますか？

あります。NPO法人 AESS 主催で「こどものアトリエ」という講座を小学生対象で開催しています。詳細は美学校のWEBをご覧ください。

ハラスメントに関する基本方針

1969年の開校以来、受講生の国籍・年齢・性別・学歴不問を掲げてきた美学校は、いかなるハラスメントも容認しません。多様な価値観の人が集う場として、すべての受講生・講師・スタッフが、一人の人間として尊重されるよう、ハラスメント防止に努め、万が一かかる事態が生じた場合には、適正に対処します。

1. ハラスメントの定義

当校で起こりやすいハラスメントとして、以下の2つについて定義と事例を示します。下記以外にも様々なハラスメントが存在し、複数のハラスメントが絡み合って生じる場合もあります。

・セクシュアル・ハラスメント

相手の意に反する性的な言動によって相手に不快感や不利益を与え、就労や就学環境を損なう行為のことです。セクシュアル・ハラスメントにあたるかどうかの判断は、その言動を受けた本人が不快に思うか否かによります。

スリーサイズなどの身体的特徴を話題にしたり、性的な経験について質問したりする。「男のくせに」「女のくせに」といった、性別で差別しようとする意識に基づいた発言をする。(ジェンダー・ハラスメントとも呼びます。) 性的指向や性自認をからかいの対象とする。ヌード写真などをわざと見せたりする。個人的な指導と引き換えに性的な関係を要求したり、執拗に食事や酒席に誘ったりする。要求を拒否されたために、受講生を展示に参加させないなどの不利益を与える。など。

・アカデミック・ハラスメント

講師等が、意識的か無意識的かを問わず、自身の優位な立場や権限を不当に利用し、受講生の受講意欲や受講環境を著しく低下させる言動や指導のことです。

講義上必要のない授業の手伝いや私的な雑用を押し付け、断られたら叱責する。特定の受講生を他の受講生と差別して、必要以上に厳しい課題を課す。指導の範囲を超えて人格を否定する言動や脅迫的な言動を行う。求められた指導を正当な理由なく拒否する。など

2. ハラスメントを起こさないために

何を不快に思うかは個人によって異なります。ハラスメントに当たるか判断がつかないときは、自分の家族や友人に同様の言動が向けられた場合を想像してください。また、講師と受講生の間に、NOと言えない力関係が図らずも存在していないか意識することを日頃から心がけてください。

自分の家族や友人に同じ事が言えるか、できるか。自分の家族や友人が同じ事を言われたら、されたらどうか。家族や友人に見られていても同じことが言えるか、できるか。

3. 被害に遭ったら

不快だと感じる言動を受けたら、我慢せずにそのことを相手に伝えてください。相手が不快感をもたらしていると感じていない場合もあるので、不快であることを口頭または文書で伝えることで、解決可能な場合もあります。その場で伝えにくい場合や、抗議をしても言動が改まらない場合は、速やかに事務局に相談してください。必要に応じて外部機関と連携しながら問題解決に努めます。その場で拒否できなかった自分が悪いのではないかと自分を責めたり、他の受講生に迷惑がかかるのではないかとといった心配をする必要はありません。相談や情報提供にあたり、相談者や情報提供者のプライバシーは保護されます。また、相談や情報提供をしたことによる、不利益な取り扱いはいりません。なお、ハラスメント行為を受けたら、いつ、どこで、どのようなことを言われたか・されたかといった記録をとっておくと、問題解決時に役立ちます。

【相談窓口】 美学校 本校・事務局

TEL : 03-3262-2529 (平日 13:00 ~ 18:00) メール : bigakko@tokyo.email.ne.jp

4. ハラスメント防止のための啓発

あらゆるハラスメントの防止のため、本指針を講師・受講生に配布するほか、希望者には映像資料の貸出や講習の案内を行うなどして周知、啓発に努めます。

プライバシーポリシー

有限会社美学校（以下「当社」といいます。）は、当社の提供するサービスにおける、お客様の個人情報の取扱いについて、以下のとおりプライバシーポリシーを定め、その適正な取扱いに努めます。

1. 個人情報の取得

当社は、お客様に当社のサービスをご利用いただく場合や、サービスに関する情報を提供するために、お客様の氏名、性別、住所、電話番号、メールアドレス等の個人情報をご提供いただく場合がございます。

2. 個人情報の利用目的

当社は、お客様からご提供いただいた個人情報を以下の目的のために利用します。

- ・入校受付、本人確認および学籍作成のため
- ・学費のクレジットカード決済のため
- ・オープン講座、公開授業、ワークショップ、その他各種イベントの予約受付等の対応のため
- ・学校連絡および授業連絡のため
- ・資料、募集要項の発送のため
- ・問い合わせへの回答のため
- ・見学、受講相談の対応のため
- ・Eメールマガジンの配信のため
- ・個人を特定しない範囲での統計的な利用のため
- ・上記の目的に付随する利用目的のため

3. 個人情報の第三者への提供

ご提供いただいた個人情報は、個人情報保護法その他の法令に基づき開示が認められる場合を除くほか、あらかじめお客様の同意を得ないで、第三者に提供しません。但し、次に掲げる場合はこの限りではありません。

3-1. 当社が利用目的の達成に必要な範囲内において個人情報の取扱いの全部または一部を委託する場合

3-2. 合併その他の事由による事業の承継に伴って個人情報が提供される場合

3-3. 国の機関もしくは地方公共団体またはその委託を受けた者が法令の定める事務を遂行することに対して協力する必要がある場合であって、お客様の同意を得ることによって当該事務の遂行に支障を及ぼすおそれがある場合

3-4. その他、個人情報保護法その他の法令で認められる場合

4. 個人情報の開示

当社は、お客様から、個人情報保護法の定めに基づき個人情報の開示を求められたときは、お客様ご本人からのご請求であることを確認の上で、お客様に対し、遅滞なく開示を行います（当該個人情報が存在しないときにはその旨を通知いたします。）。但し、個人情報保護法その他の法令により、当社が開示の義務を負わない場合は、この限りではありません。

5. 個人情報の訂正および利用停止等

5-1. 当社は、お客様から、（１）個人情報が真実でないという理由によって個人情報保護法の定めに基づきその内容の訂正を求められた場合、及び（２）あらかじめ公表された利用目的の範囲を超えて取り扱われているという理由または偽りその他不正の手段により収集されたものであるという理由により、個人情報保護法の定めに基づきその利用の停止を求められた場合には、お客様ご本人からのご請求であることを確認の上で遅滞なく必要な調査を行い、その結果に基づき、個人情報の内容の訂正または利用停止を行い、その旨をお客様に通知します。なお、合理的な理由に基づいて訂正または利用停止を行わない旨の決定をしたときは、お客様に対しその旨を通知いたします。

5-2. 当社は、お客様から、お客様の個人情報について消去を求められた場合、当社が当該請求に応じる必要があると判断した場合は、お客様ご本人からのご請求であることを確認の上で、個人情報の消去を行い、その旨をお客様に通知します。その場合、お客様が抹消された個人情報に基づいて利用されていた当社の提供するサービスは停止され、そのサービスのお客様の利用資格は失われます。

5-3. 個人情報保護法その他の法令により、当社が訂正等または利用停止等の義務を負わない場合は、前２項の規定は適用されません。

6. お問い合わせ

当社の個人情報の取扱いに関するお問い合わせは、下記にご連絡ください。

有限会社 美学校

住 所：〒101-0051 東京都千代田区神田神保町2-20 第2富士ビル3F

T E L：03-3262-2529（平日13:00～18:00）

メール：bigakko@tokyo.email.ne.jp

美学校 本校／事務局

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 2-20 第2富士ビル 3F
TEL. 03-3262-2529 (受付時間：平日 13:00～18:00)
E-mail. bigakko@tokyo.email.ne.jp

美学校 スタジオ

〒101-0065 東京都千代田区西神田 2-4-6 宮川ビル 1F (袋小路奥)
※郵便ポストはありません。郵便物は本校にお送りください。

美学校 岡山校

〒700-0011 岡山県岡山市北区学南町 2-7-4
LIVE HOUSE PEPPER LAND 内

<https://bigakko.jp>

